

喜界島志戸桶方言の語彙

中本, 正智

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

63

(発行年 / Year)

1978-11-25

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012771>

喜界島志戸桶方言の語彙

中 本 正 智

語彙その 1. 名詞語彙

(1) 身体関係の語彙

体の部分に関する語彙

頭

hamatʃi (頭)

hamatʃiɖa jamjun (頭が痛い)

hamatʃiɖa jutasan (頭が良い)

hamatʃi sabakjun (頭の髪をとかす)

hamatʃi jui (髪を結う)

hamatʃi kʲirafi (髪を刈らせ<切らせ>)

tsuburu (頭, 頭蓋骨)

hamatʃi よりも古い語である。tsuburu が
生きている人の頭を指すのに対し, tsubura
: は「白骨化した頭蓋骨」をいう。

fju:riki (ひよめき)

ho:bī (脳天・頭)

hamatʃi や tsuburu よりも古い表現。

ho:bīɖa jamjun (頭が痛い)

ʔanu warabīnu ho:bīnu ʔubīsa (あ
の子供の頭が大きい)

hassaŋi: (頭髪)

カシラゲ(頭毛)に対応する。「抜け毛」の
ことにもいう。

ʃiraŋi (白髪) magguri: (ちぢれ毛)

magguri hassaŋi: ともいう。

marubo:dʒa: (坊主頭)

nisegi (二才刈り) 若者のしゃれた刈り

方をいう。刈りあげるようなやり方をいう。

haikara nisegi ともいう。

waidampatsi (二つ分けにした髪) 割り
断髪という表現。

matsudʒi (つむじ)

tʔamatsudʒi: (二つ巻き)

pagi: (禿げ頭) paga: ともいう。P は
F に近い。

baikin (しらくも)

ʔikki (ふけ) 魚のうろこと同じ表現。

no:misu (脳味噌)

顔

tsʔura (顔)

tsʔurabuni (頬骨)

hatafu: (頬) 片頬という表現。

mē:tʃi: (額)

mē:tʃi: pirusai (額が広い)

mē:tʃi: gabu: (額が前に尖っている子
供) hamatʃi gabu: (後頭部が尖って
いる子供) gabu: bo: (額も後頭部も
尖っている男の子)

mē:tʃi: は、おそらく「前額」の変形
であろう。

mē:tʃi: gaʃira (眉間)

fidʒa (しわ)

fidʒaga jutun (しわが寄っている)

顔面や額の「しわ」の総称。

※「えくぼ」は「無回答」。

fumihami (こめかみ)

?anifukka: (おたふく)

?ani は魚の鰓(えら)のこと。fukka:
は「ふくれているもの」を表わす。

ts?urafuk kwa: は顔面がふくれている者
を表わす。

funato: maki (頬かむり)

funato: は「船頭」のこと。

目

majuḡi (眉)眉毛のことにもいう。

本来は mīmanju という。maju はほと
んど使わない。

mitta (まつげ)

mittanu naḡasa (まつげが長い)

mī: (目)

mīntama (目の玉)ともいう。

kurumīntama (黒目)

ninnjoḡka: (瞳。人形の写るところ)

?ufumīntama (大きい目)

?inamī: (細い目)

mī: fukkitui (目がふくれている)

mīmbutfi: (目の縁)

※「目尻」は無回答。

mīssa: mī: (目の縁が赤くなる眼病)

majuḡi (眉)眉毛のことにもいう。

本来は mīmanju または mīmbufi という。

mitta (まぶた) 目蓋という表現。

mitta sui (まぶたをこする) 眠気がして
まぶたをこすること。

mikkjasasa (まぶしい)

古い言い方に migkawa: (目の皮)がある。

t?i: mittfa: (一重まぶた)

t?a: mittfa: (二重まぶた)

sagai mī: (たれ目)

mīttfo: (盲) 古い言い方に mīkka: が
ある。mīttfo: は卑語に用いる。

toraho: mu (トラホーム)

tui mī: (鳥目)

※「やぶにらみ」は無回答。

ts?ikamī (近眼)

tu: mī (老眼)

※「片目」は無回答。

mī: bu: (ものもらい)

mī: bu: ḡa ?idḡitui (ものもらいが出ている)

nada (涙)

nadaḡa fuburiti (涙がこぼれて)

mījani (目やに)

mītta sui (まばたきをする)「目打ち」と
いう表現はない。

mī: ḡa tsabitfabi (目をパチパチする)

mīme: (めまい)

mīme: sui (めまいする)

mīkka: ku: (めかくし)

mīntfira: (目に入ったごみ)

この語は「目+の+塵」という表現で、これ
に指小辞の a が付いたものであろう。沖
縄のミンチュナーも同語源であろう。

鼻

pana (鼻)

panaḡa ta: san (鼻が高い)

panaḡa tsimatī (鼻がつまって)

pana k?uttsun (鼻をほじくる)

fifibana (低い鼻)

panansaki: (鼻の先)

panaḡgana: (鼻の穴) panaḡgama ともい
う。穴一般は gana または gama という。「節
穴」も同じ。「蟹の穴」は ganigama: という。

panaŋganaːnu ʔub̥isai (鼻の穴が大きい)
 pananx̥iː (鼻の毛)
 panan x̥iːnu naŋasa jaː (鼻の毛が長い)
 panan x̥iː nuŋjun (鼻の毛を抜く)
 panan ʃiru (鼻水)
 pana dai (鼻たれ)
 pana tʃiː (鼻血)
 panatʃiː ɲa ʔidʒijui (鼻血が出る)
 pananussuː (鼻くそ)
 pananussuː turi (鼻くそを取れ)
 haɖʒa (におい)
 jukahadʒa (良いにおい)
 sasan haɖʒa (悪いにおい)
 n̥iːki (いびき)

耳

mimi (耳)
 mimi kʰuttsun (耳をほじくる)
 mimiɲa jamjun (耳が痛い)
 nubus̥it̥i mimiɲa jamjun (のぼせて耳
 がいたい)
 mimiɲa tuːsan (耳が遠い)
 miminussu (耳くそ)
 miminussu turi (耳くそを取れ)
 mindʒariː (耳だれ)
 mintabu (耳たぶ)
 kʰuddʒaː (つんぼ)

口

kʰutʃi (口)
 kʰutʃibiru (唇)
 w̥iŋkʰutʃibiru (上唇)
 saŋkʰutʃibiru (下唇)
 suba (舌)
 suban saki (舌先)

pini (髯) p音は, ʃに近い。
 pana pini (上髯)
 ʔutuθeː pini (下髯) sampiniː
 (下の髯)ともいう。
 sampiniː nubasun (下髯をのばす)
 juːsaː (啞)
 juːsaː najui (啞になる)
 ʔinjani (どもり)
 ʔinjani tsʰukkjaː sun (どもりになる)
 subaseː (兎唇)
 tsʰubb̥eː (唾)
 tsʰubb̥eː ʔidʒasun (唾を吐く)
 judai (よだれ)
 judai taratʃi (よだれをたらして)
 judai patʃi (よだれを吐いて)
 judaiː (よだれをたらしている者)
 tan (痰)
 suba (舌)
 suba kʰuːti (舌をかむ)
 paː (歯)
 paːɲa jamjun (歯が痛い)
 paːnu kak̥it̥i (歯が欠けて)
 「歯」のことを panitaともいう。
 panitanu tsʰusajaː (歯が強い)
 鋸や包丁の「刃」にもいう。
 nuku (鋸) nukumpaː (鋸の刃)
 poːtʃuː (包丁) poːtʃumpaː (包丁
 の刃)
 m̥empaː (前歯)
 ʔukumpaː (奥歯)
 kʰiba (犬歯) 「牙」も同じ。
 ʔaː dʒeːbaː (八重歯)
 paː ʔidʒiː (出っ歯)
 muʃiba (虫歯)
 padʒifi (歯茎)

paː nussuː (齒くそ)

ʔiki (息)

ʔiki sui (息をする)

kui (声)

kui ʔidʒasun (声を出す)

kui kikafi (よろしく言って下さい)

「 声を聞かせ 」という表現。

ʔufugui (大声)

ʔufugui ʔagiti (大声をあげて)

panagui (鼻声)

mīsukaː munuː (無口の人, あまりしゃべらない人)

ʃibuki (口笛)

ʃibuki fukjun (口笛を吹く)

patu (指笛)

patu rukjun (指笛を吹く)

※「 葉笛・草笛 」は無回答。

ʔakubi (あくび)

ʔakubi sui (あくびをする)

ʃiki (咳)

ʔikindijui (咳をする)

沖縄でいうサックイはない。

gëːgë (げっぷ)

gëːgë sun (げっぷをする)

ʔussu (陰口)

ʔussu ʔjun (陰口をいう)

ʔussu bakkai ʔijui jaː (陰口ばかり言っているね)

顎

ʔagu (顎)

ʔaguga padditi (顎がはずれて)

「 顎 」は ʔadʒimaː ともいう。

ʔutuɣeː (おとがい)

ssan ʔutuɣeː (下顎)

首

kʔubi (首)

kʔubi naɣaː (首長のもの)

kʔubi naɣasai (首が長い)

kʔubiga maːran (首が回らない)

kʔubin sudʒi (首筋)

※「 うなじ 」は無回答。

kʔunukʔuː (後頭部)

nubiː (喉)

nubiː nu kawatʃi (喉が乾いて)

nubiː (喉骨)

hamiɣkaː (口蓋垂, 喉彦)

nubiː nu kʔuda (食道)

ʔinnubi (喉の病気) 物を飲むときに喉が痛い。

肩

hata (肩)

hata nu koːti (肩が凝って)

piki (けんびき)

pirabuniː (かいがら骨)

手

tīː (手)

tīnwataː (手の平)

tīθkʔubi (手首)

tīdʒa (手首が曲がらなくていたい病気)

guteː (腕) 「 五体 」のこと。

ʔudi (下膊)

guteː (上膊)

pidʒi (肘)

tīkkoː (こぶし) 最近は kubuʃi ともいう。

tīkkoː tsʔukjun (こぶしを突く)

jubi (指)

jubi nubafi (指をのばせ)

jubi magiri (指を曲げろ)
 timpana: (指先)
 timmata: (指と指の間)
 ※「指の根元」は無回答。
 ?ujajubi (親指)
 ts?ussafi (人差指) ts?usafi: ともいう。
 na:jubi (中指)
 ※「薬指」は特に名称がない。
 kojubi (小指)
 ※「指紋」は無回答。
 ts?umĩ (爪)
 ts?umĩga paḡariti (爪がはがれて)
 ts?umĩ k?iri (爪を切る)
 tints?umĩ (手の爪)
 pjants?umĩ (足の爪)
 ts?umabarami (爪の中が膿むこと)
 「爪^{めづみ}孕」という表現。
 ts?umĩnu pĩndu (爪の垢)
 体の垢は pĩḡduとも pĩḡguともいう。
 pidaji: (左きき)

胴

du: (体) 体全体をあらわす。
 ?abara (胴)「あばらぼね」からの発達であろう。
 waki (脇)
 waki ssasa (脇がくさい)
 wakibara (脇腹) jukubaraともいう。
 jukubaranu jadi (脇腹が痛くて)
 wakussa: pini: (脇毛)「脇下毛」という表現。
 muni (胸)
 muninu jadi (胸が痛くて)
 ?abarabuni (肋骨)
 muninçi: (胸毛)

ts?i: (乳)「乳房」にもいう。
 ts?i: numafi (乳を飲ます)
 ts?iḡkubi: (乳首)
 ※「みずおち」は無回答。
 wata (腹)
 watanu jadi (腹が痛い)
 wata jami (腹痛)
 watanu pitfi (腹が減る)
 watannumi: (腹いっぱい)
 na:wata: (五分ほど食った腹)満腹になっていない腹。
 pusu (臍) pはFに近い。
 pusu ts?ugi (臍を切る)出産時に新生児の臍を「切る」ことを「継ぐ」という。忌詞の一種。
 pusun wu: (臍の緒)
 ?idḡibusu (出臍)
 rufi (背中)「こし」に対応する語であるが、意味領域が広く、背中全体を表現する。
 ruḡimpuni: (背中骨)
 nagani (かいがら骨の下あたりの背中)
 rufi k?udzu: (せむし)背中の曲った者。
 gamaku (胸囲のあたりをいう)
 沖繩のガマクは「腰」を指すが、志戸桶では「胸囲のあたり」を指す語となっている。志戸桶では「腰」を jukubara (横腹)で表現している。
 ?atte:buni (坐骨)
 mainuxi: (陰毛)
 k?intama (睾丸)
 sao (陰茎)
 mara (睾丸と陰茎の総称)
 manju: (陰門)
 湾集落では çi: という。
 「性交する」は pi: suiとも、
 mannjo: suiとも、

ganiː suiともいう。

mai (尻)

maibuni (尾骶骨) 尻の真中の骨。その両側の骨は ʔatteːbuniː という。

内臓

wata (内臓全体の称)

魚の内臓全体にもいう。

mami (心臓)

ʔiː (胃袋)

sanada wata (小腸)

ʔuFu wata (腸)

kʔimu (肝臓) 「心」の意にもさかんに用いられる。

kʔimu ssari (怒ること) 「肝が腐る」という表現。

kʔimu ttʃaː (短気の人) 「肝が切れる者」という表現。

kʔimu kjorasa (心がきれいな人)

kʔimu gurusu (かわいそうである)

「肝が苦しい」という表現で、本来は表現者の心の状態をあらわしていたものが、表現対象の様子を表わすように発達している。

mami (腎臓)

ʔoːdan (黄胆)

fuku (肺臓)

脚

pjaː (脚・足)

pja nu neːnjun (足が悪くてひきずる)

mata (股)

tʔamataː (二股) tʔamataː jidaː
(二股の枝)

mumu (腿)

tsʔubuʃi (膝)

kʔudzara (膝小僧)

sunı (脛)

pjantaiː (こむら)

pjaŋkʔubi (足首)

ʔamamaː (踝) 内側にも外側にもいう。

pjaŋkawaː (足の甲)

pjanwataː (足の裏)

ʔadufi (踵)

※「土ふまず」は無回答。

pjaŋkataː (足跡)

体の全体に関する語彙

pĩŋgu (垢) pĩnduともいう。

pĩŋgu ʔutufi (垢を落とす)

「鍋のすす」は nabĩpĩŋgu という。

pĩndu (汚れ)

kʔinnu pĩndu ʔutufi (着物の汚れを落とす)

着物などの「汚れ」には pĩndu といい、pĩŋgu とは言わない。

ʔafi (汗)

ʔafi paratʃi (汗を流して)

ʔafi patʃi (汗をかいて)

ʔafibu (あせも)

kappaː (あばた)

ʃirumiː (あぶらみ)

kawami (あぶらみ) 脂のついている白い肉。「皮身」であろう。

nutʃi (命)

kʔubbĩː (疣)

padzuki (いれずみ)

ʔumi (膿)

ʔumi ʔidʒaʃi (膿を出す)

kasabuː (かさぶた)

kasabu: turi (かさぶたをはがす)
 kasa: (できもの) 一面にできたもの。
 hadgi (風邪)
 hadgi ritfan (風邪をひいた)
 katappja: tubi (片足とび)
 du: (体) karadaともいう。
 karada kujatfa: (体をこわした)
 du: guwai nu wassan (体の具合が悪い)
 kawa (皮)
 kawa suifadga (皮をすりむいた)
 ts?uqe: (関節)
 ts?uqe: nu paddutfan (関節をはずした)
 k?idzu (傷)
 k?idzu?a no:tan (傷が治った)
 k?idzu k?itan (傷をつけた)
 jatfu: (灸)
 jatfu: jakjun (灸をすえる)「灸を焼く」
 という表現。
 ?a:fi:fi: (筋肉質の肉) 人間の筋肉質につ
 いて言う。動物の食用の肉は ?a:miとい
 う。
 guwai (具合)
 guwainu wassa (具合が悪い)
 k?usui (薬)
 k?usui k?iro: (薬を付けよう)
 k?usui numo: (薬を飲もう)
 mĩ:nussui (目薬) mĩ:nussui ?irĩro
 : (目薬を入れよう)
 ssu (糞・大便)
 ssu majun (糞をする)
 ts?uikkijun (けいれんをおこす, ひきつけ
 をおこす)
 tf?isudgi (血管)
 ?o:sudgi (青筋)
 k?ubisudgi (首筋, 血管のこと)

k?udafi (下痢)
 hara k?udafi (腹下し)
 fini (こぶ)
 頭をぶつけて出来るものにも fini という。
 ?utsukkja: jun (腰を前にまげてかがむ)
 sumai: (尻を地面につけないで膝だけを折
 って坐る)
 fibai (小便)
 fibai sun (小便する)
 sudgi (筋)
 gute: sudgi (腕の筋肉)
 gute: sudginu ts?usa ja: (腕の筋肉が
 強い, 相撲の手が強い)
 samadziki: (正座)
 samadziki: sui (正座する)
 ?adga: ji: (あぐら) 男性の坐り方。
 ?adga: ji: sui (あぐらをかく)
 wunan ji: (女坐り) 女性の坐り方。
 両足を一方の方向に流すような坐り方。
 wunan ji: sui (女坐りをする)
 ts?uttatfi ji: (膝をたてた坐り方)
 ts?uttatfi ji: sui (膝をたてた坐り方
 をする)
 tẽ: (丈)
 tẽ: da:sa (丈高さ)
 tẽ:ga nudi ja: (丈がのびたね)
 mamĩ (たこ) 手足にできる豆状のかたくもり
 あがったもの。
 timmamĩ (手にできるたこ)
 k?utsu mamĩ (靴ずれでできたたこ)
 tannjasa (たむし)
 tf?i: (血)
 tf?i: ga ?idgijun (血が出る)
 tf?ikara (力)
 tf?ikara?a ?idgitĩ (力が出て)

pjaːteːtaː (爪先立ち)

爪先だけで立つ姿勢。

duku (毒)

dukubatʃi (毒峰)

dukussui (毒薬)

tunnjupadaː (鳥肌)

nikibi (にきび)

nikibinu ʔidʒitiː (にきびが出た)

paramjun (妊娠する)

pafikuː (競走)

pafikuː ʃiroː (競走しよう)

paʃiroː (走ろう)

nibutuː (はれもの) 大きいはれもの。

kʔidzu (小さいできもの) 傷にもいう。

jammëː (病気)

jammëːni natan (病気になった)

pīː (屁)

pīː pijun (屁をひる)

ʔadʒa (ほくろ) 「瘡」に対応する語。

ʔoːdʒin (青あざ)

funi (骨)

ʔenfʲiɖuː (蒙古班)

doːmoː (もうろく)

ʔimi (夢)

ʔimi mitʃan (夢をみる)

(2) 人間関係の語彙

wan (私) wanuともいう。

wanoː (私は) wanni (私に)

waːkja (私たち)

daː (君, お前) 同輩と目下に対して。

dannaː (君たち, お前たち)

naːmi (あなた) 目上の方に対して。

naːkja (あなたたち)

ʔantʃu (彼) 「あの人」という表現。

ʔantʃuntʃaː (彼たち)

taru (誰) 目下にも同輩にも目上にも用いる。

tʃʔu (人)

tʃʔuɖa ʔumoːtʃan (人がいらっしゃった)

jigga (男)

jiggaɖakʔwa (男の子)

wunagu (女)

wunaguɖakʔwa (女の子)

poːbëː (友たち) 「朋輩」か。男性でも女性でもよい。PはFに近い。

jiggaapoːbëː (男友だち)

wunampoːbëː (女友だち)

ʔuja (親)

jiɖɖa ʔuja (男の親)

wunan ʔuja (女の親)

ʔadʒaː (父) 新しくは jakkiː という。

沖縄のヤッチーは「兄」である。

baː (母)

mammaː (まま母, 血のつながりのない母親)

mammaː ʔadʒaː (血のつながりのない父親)

kʔwa (子)

warabi (子供) 「童」に対応。

ʔaːɖaː (赤坊) ʔaːboː (赤坊)ともいう。

tʔappaː (ふたご)

ʔujamadiː (みなし子) 「親迷い」という表現。

hakkʲiɖwaː (私生児) 「隠れ子」の表現。

tumeːɖwaː ともいう。

ʔufuttʃu (老人)

ʔitsummanika ʔufuttʃuni natui (いつのまにか老人になる)

nise: (青年)
me:rabi (17~8才頃の女の子) 「女童」
に対応する。

tufi (年令)

du:nin (同じ年)

ja: (家)

wa:ja: (私の家)

da:ja: (君の家)

na:kjanu ja: (あなたたちの家)

ja:nutfu (家族) ja:nindzu (家人数)
ともいう。

※「家庭」は無回答。沖縄のチネーに当る語がない。

paro:dzi: (親戚) 最近では findi: (親類)を用いる。

?ujafudzi (先祖)

?adzi: (祖父)

?amma: (祖母)

沖縄ではアンマーは「母」を表わす。

?ufu ?adzi: (曾祖父)

?ufu ?amma: (曾祖母)

kjo:de: (兄弟)

k?igka: (兄) 最近は ni:san という。

?uttu: (弟) 男女を問わず、年下の者をいう。

baŋka: (姉)

nabi baŋka: (ナベ姉さん)

tfijo baŋka: (千代姉さん)

wunaŋkjo:de: (女きょうだい) wunaiともいう。これは男きょうだいから呼ぶ女きょうだいを表わす。

jiŋŋakjo:de: (男きょうだい) ji:riともいう。これは女きょうだいからみてその男きょうだいと呼ぶ語。

matabë: (末子) 男女を問わない。

fi da: (年上) 年上の者一般を表わす。

tufisa: (年下) 年下の者一般を表わす。

?atutui (あととり)

maŋu: (孫)

matamaŋu: (曾孫)

çimaŋu: (やしやご)

wudgi: (叔父)

wuba: (叔母)

mī:wui (甥)

mī:kkwa (姪)

?ituku (いとこ)

su:tu (しゅうと)

wunansu:tu (しゅうとめ)

jiŋŋasu:tu (しゅうと、男親)

kudzu:tu (こじゅうと)

su:tu wunai (義理の女きょうだい)

su:tu ji:ri (義理の男きょうだい)

su:tu wudgi: (義理の叔父)

su:tu wuba: (義理の叔母)

?ujan ja: (里) 「親の家」という表現。

mikjamudui (里帰り) 「三日戻り」ということで、結婚してから3日目に里に帰ること。

wutu (夫)

tudgi (妻)

tudgitu (夫婦)

ja: tatfi (女性が夫をもって家をかまえること) 「嫁ぐ」意をあらわす。

tudgi murajun (妻をもつ) 「妻をもらう」意を表わす。

ja: wa:i (分家する)

wutumadi: (寡婦)

wutu wuranu: (寡婦) 夫を失った女。

tudgimadi: (寡夫)

tudgi wuranu: (寡夫) 妻を失った男。

duttŋuimun (独り者)

hatafi: (片方) 不揃いのもの。下駄など
にいう。

niŋguru (めかけ) 「ねんごろ」に対応する語。

kaŋi:sa: (下男) 「加勢をする者」という表現。

特に「家に住みついて働く人」のことを ja-tui という。

mide: (女中, 召使) 女性だけをいう。
一年中その家に住みついて手伝いをした。

kʔwamuja: (子守り)

ʔasani (朝寝)

ʔasani sun (朝寝する)

ʔugurimbo: (あばれん坊)

ʔugurijun (あばれる)

su: tfikanu: (甘ったれ) 忠告しても聞かない者という表現。

kʔutŋijude: (言い争うこと)

kʔutŋijude: sui (言い争いをする)

ŋifi: (意地悪) kʔimussari: (肝腐れ)ともいう。

ni: bui (居寝り)

ni: bui sui (居寝りする)

wusu (嘘)

wusu ʔitŋui (嘘を言っている)

wusu jumuta: (嘘の話)

ʔatinarampanaŋi (あてにならない話)

ja: ʔikja: po: nakja: (家ではいばり, 外では泣き虫の子, 内弁慶)

ja: nakja: (家で甘えて泣く子)

po: ʔikja: (外ではしゃぐ子)

ʔutu (音沙汰)

ʔutun satamu ne: ran (音沙汰もない)

ŋikki (喧嘩)

喧嘩一般を ŋikkikata という。

tudŋitu ŋikki (夫婦喧嘩)

ʔujakkwanu ŋikki (親子喧嘩)

kjo:de: ŋikki (兄弟喧嘩)

duŋikki (友だち喧嘩)

ʔa:ŋi (動物のけんか)

ʔuma ʔa:ŋi (馬のけんか)

ʔuŋi ʔa:ŋi (牛のけんか)

jagi: ʔa:ŋi (山羊のけんか)

tui ʔa:ŋi (鶏のけんか)

jukussari: (儉約者) 「慾腐れ」という表現。

niŋŋja: (握っている者)ともいう。

pi:saŋi: (寒がり)

tī:ni: (大事)

tī:ni: sui (大事にする)

nakiradŋi: (泣き虫)

nama: (怠け者)

niŋutu (寝言)

niŋutu ʔitŋun (寝言を言っている)

dŋama (夢遊病)

dŋama sun (夢遊病のようにものにつかれて迷い歩く)

nidzama (寝相)

nidzamanu wassa (寝相が悪い)

pinni (昼寝)

dukatti (わがまま, 自分勝手)

女性の名前に「阿人樽」があり, ʔattfa: と呼んでいる。

女性の名前には natsu, nabī, ʔattfa: などがある。

男性の名前には turadŋu:, ʔuŋidŋiro:, hanta:ni: などがある。

ʔaigato: (ありがとう) 目下と同輩に対して。

aigate: de:ta (ありがとうございました) 目上に対して。

(3) 生物関係の語彙

kɪdamun (獣)

馬・牛・犬・山羊など家畜も含まれる。

wu:mun (雄)

mɪ:mun (雌)

pammə: (食物一般) 「飯米」に対応する語で、人間や家畜の食物一般をいう。

butammə: (豚の餌)

ʔufimmə: (牛の餌)

ʔumammə: (馬の餌)

habufi (魚の蒔き餌)

ʔiju kʔwasun (魚を釣る)

tsʔumbjun (交尾する)

pɪguri: (山羊などさがりがつく)

ʔigga: (犬)

ʔinuʃifi (猪) 喜界島には棲息していない。

ʔusagi (兎)

ʔusagiɣkawa: (兎の皮)

ʔufi (牛)

ʔufiɣkawa: (牛の皮)

ʔuja ʔufi (大牛)

wu: ʔufi (雄牛)

mɪ: ʔufi (雌牛)

futi: ʔufi (種牛, 大牛)

ʔufiɣa: (仔牛)

ʔufiɣa:nu wui (仔牛がいる)

牛・馬に対しての号令

fui (前進せよ)

do: (止まれ)

Furu Furu (来い来い)

人間の場合には ku: (来い)。

so:so (退け)

ʔu: (右へ曲がれ)

kjudi (左へ曲がれ)

ʔuma (馬)

wu: ma (牡馬)

mɪ: ma: (牝馬) muima: ともいう。

ʔumaɣkwa: (仔馬)

ko:mui (こうもり)

sa:ru: (猿)

maja: (猫)

midzuppa: (ねずみ)

buta (豚)

沖縄でいうウーに対応する語はない。

pindga: (山羊) 最近では jagi: という。

kʔuddga (鯨)

ʔafira: (あひる)

tsʔattja: (うぐいす)

kamu (鴨)

garasa: (からす)

jinduja: (雀)

taka (鷹)

tui (鳥一般)

kʔane:dui (鶏) 「飼い鳥」という表現。

kagami (とさか)

tatʃi kagami (立っているとさか)

ʔifi kagami (石のようなとさか)

tunnu ja: (鳥小屋)

tuinu kagu (鳥籠)

tuɣɣaɣkwa: (ひよこ)

tuppa: または pijo: ともいう。

fuga: (卵)

fuga: natʃan (卵を生んだ)

hasu: (鰻)
 patu: (鳩)
 jama batu: (山鳩)
 ɕu: duja: (ひょうどり)
 majasuku (ふくろう)
 maɕi tɕu (目白)
 動物の鳴き声
 gu:gu: (豚)
 mo: (牛)
 ɕinɕin (馬)
 me:me: (山羊)
 kokkokokko (にわとり)
 ku:ku: ʔu: (雄のにわとり)
 mjao: mjao: (猫)

 jadunabbja: (いもり) 「とかげ」も同じ。
 misukamja: (やもり)
 bikja: (蛙)
 ʃimitʃibuna: (おたまじゃくし)
 hamī (亀)
 hamīnɸu: (亀の甲)
 mattaba: (黒と赤の混っている蛇)
 ʔo:sunja: (青大将)
 ※「まむし」は無回答。

 ʔiju (魚)
 patʃi: (いろぶだい) 沖縄ではイラブチとい
 う。
 muru: (むろあじ)
 ʔaju (鮎)
 ʔunanja: (鰻)
 katsu: (鰹)
 se:ho:ja: (かれい)
 kiɣɣjo (金魚)
 ʃitsu: (黒鯛)

koi (鯉)
 sabaju (鯖)
 saba (鮫)
 tʃʔin (しろ鯛)
 ʔisudʒa: (赤色の魚で小さく、月夜の晩に
 よく釣れる)
 dʒudʒo: (どじょう)
 tubiju: (飛魚)
 ※「なまこ」は無回答。
 paku: (ふぐ)
 ni:fuku: (針千本)
 ɸuna: (鮒)
 maguro (まぐろ)
 medaka (めだか)
 tani (蛇)
 ʔamami: (ごきぶり)
 ʔa:ni: (蟻)
 ʔa:ni: nu tamagu (蟻の卵)
 gatta: (いなご) 大きい種類をいう。
 稲の穂などに付く小さな種類は gattapka:
 という。
 ʔudʒimufi (蛆)
 kandzumufi (便所虫) ともいう。
 gadʒamja: (蚊)
 ʔissa:tu: (かまきり)
 ʔindzo: mufi (大きい毛虫)
 safi: (小さい毛虫)
 ko:rogi (こおろぎ) gatta: ともいう。
 ※「こがね虫」は無回答。
 ※「さなぎ」は無回答。
 sakufa:ja: (尺取虫)
 ʃirami (虱)
 hamatʃidʒirami (髪の毛虱)
 kʔindʒirami (着物虱)
 ʔasasa: (蟬)

papira: (蝶) PはFに近い。	kaja: (貝)
?e: a: (とんぼ)	?innjumigaja: (あわび)
tukunu?ima ?e:dʒa: (大きいとんぼ)	kajaŋkwa: (あさり)
「徳之島とんぼ」という表現。	※「はまぐり」は無回答。
?amifui ?e:dʒa: (黄色の小さいとんぼ)	?ika (いか)
「雨降りとんぼ」という表現。	gasu:ta: (うに)
numi (蚤)	?ibi (海老)
pē: (蠅)	?a:dʒaja: (車えび)
pē:ŋa bittai wui (蠅がたくさんいる)	se:ta: (川えび)
patʃi (蜂)	gaki (かき)
tsʔuburubatʃi (熊蜂)	kurage (くらげ)
gajabatʃi (小さい蜂)	to: (たこ)
mitʃabatʃi (壁などに巣を作る種類の蜂)	mado: (真蛸) 黒みがかって手が短い。
mufi (虫) 総称。	sugai: (小蛸) 手が長く、小さい種類。
tsʔunnja: nju: (かたつむり)	tammja: (たにし)
gani (蟹)	?amama: (やどかり)
gasa: (海蟹の一種)	?a:dzo:ja: (しゃこがい)
?o:gantʃa: (海蟹の一種)	dzu: (尾)
mukē:gani (波打際に棲息し、食用になる)	?umandʒu: (馬の尻尾)
pamagani: (浜蟹)	pja: (足)
mīdzugani (川に棲息している蟹で、足に毛がある。	wata: (腸)
ʃirantuja: gani: (畑の畦などに棲息している蟹で、体は黒色、足は黄色、大型である)	pani (羽) 翼にもいう。
蛇の鱗の中にいる虫を取って食べるといわれる。	?ikki (鱗)
「蚤を取る蟹」という表現は、そこから	?anji (えら、鰓)
きている。	ho: (甲羅) fu: ともいう。
mampikja: (蜘蛛) 「まゆを引く」という表現。	kamīnuru: (亀の甲羅)
tani: (だに)	ganīnfu: (蟹の甲羅)
※「なめくじ」は無回答。以前には棲息してい	kʔiba (牙)
なかったが、最近入ってきた。	butaŋkʔiba (豚の牙)
mimidʒa: (みみず)	tsʔumī (爪)
mukadʒi (百足)	kawa (皮)
	xī: (毛)
	ssu (糞)
	ssu majun (糞をする)

人間および生物の擬態語

「うろうろ」など、動作を表現する語。

人間は manja manja

tsʔuŋa manja manja sui

(人がうろうろしている)

牛・馬は matfa matfa

猫・犬は maja maja

maja: ɣa maja maja sui

猫がうろうろしている

ʔiŋɣa: ɣa maja maja sui

(犬がうろうろしている)

魚は mantfa mantfa

虫は ʔunja ʔunja

蛇は ʔunja ʔunja

蠅は bu: bu:

(4) 植物関係の語彙

ʃimunai (うらなり)

juda (枝)

xɪnjuda: (木の枝)

kawa (皮)

xɪŋkawa: (木の皮)

xɪnnai: (果実)

xɪ: (木)

xɪmpa: (落葉)

hafi: ba: (木の葉) よもぎ餅などを

包む葉にもいう。

judasaki (梢, 枝の先)

xɪmpana (梢, 木のとっぺん)

ta: pana (梢, 木のとっぺん) 「高頂」という表現。

sura: (さとうきびの先の青い部分)

木の一般の「梢」の意では用いない。

haŋɪssa: (木陰) 「陰下」という表現。

xɪmmutu (木の根)

ssa (草)

ssabara (草原)

ʃitsunasa: (狂い咲き) 「節無し」という表現。

saʃigɪ (挿し木)

ʃin (芯)

xɪ: nu ʃin (木の芯)

tani (種)

tani makjun (種を蒔く)

tanimun (種もの)

mumidani (もみ種)

kykummi: (つぼみ) kʔukummiともいう。

tsʔuru (蔓)

ni: ni: (とげ) ばらや阿旦などのとげ。

魚のとげは puni: といい、板などのささくれは sa: mi: という。

xɪmmutu (根っこ)

pana (花)

pananu su: riti (花がしおれて)

buʃi (節) 節一般をいう。

dembuʃi: (竹の節)

xɪ: nu buʃi (木の節)

pu: (穂)

ʔinimpu: (稲の穂)

ʔinimpunu kukudun (稲の穂がふくらんでいる)

dzufikjanupu: (すすきの穂)

wakamɪ (若芽)

wu: (麻)

kʔuda: (あずき)

ʔawa (粟)

ʔanikʔinta: (小さい種類のいちご)

「蟻のきんたま」が語源であるという。

ʔufiŋkʔinta: (大きい種類のいちご)
 「牛のきんたま」が語源であるという。
 ʔini (稲)
 ʔinimpu: (稲の穂)
 ʔini hai (稲を刈る)
 fansu: (さつまいも)
 fansun kawa: (さつまいもの皮)
 fansu: niʔa:ʃi: (さつまいもを練ったご
 はん)
 fansu: ʃimiʃi: (さつまいもに砂糖やね
 ぎなどを入れたもの)
 fansuŋku: (さつまいもの澱粉)
 沖縄ではンムクジといい、「葛粉」の「く
 ず」と関係があろう。
 satu ʔimu (里芋)
 dʒaga ʔimu (じゃがいも)
 jama ʔimu (山芋)
 ※「いんげん豆」は無回答。
 kʔiʔui (きゅうり)
 nja:g ui (苦瓜)
 ginda: (えんどう豆)
 gadʒimarʊ (がじゅまる)
 pʔamakaʃiŋi: (沖縄のウスクに当る木)
 ガジュマルに似ているが、葉が細長く、大き
 い。
 kaki (柿)
 ʃibugaki (渋柿)
 ho: bi (かび)
 ho: binu mi: tui (かびが生えている)
 toppjo: (かぼちゃ)
 gaja (茅)
 kaŋgaja (真茅)
 mimmo: ja: (木くらげ)
 naba: (きのこ) 食用にはならない。
 kʔwaŋi: (桑) 沖縄のナンデーシーに当る

語はない。
 muʃiŋa: (蚕)
 gubo: (ごぼう)
 kubu (昆布)
 konnjaku (こんにゃく)
 sakaki (榊)
 sakura (桜)
 ※「笹」は無回答。
 wuni (さとうきび)
 saboten (さぼてん)
 ※「さるすべり」は無回答。
 ʔuruʔiʃi (珊瑚礁)
 garusa: (軽石)
 suru (棕櫚)
 sasanda: (芝生)
 sasanda: hai (芝生をかる)
 so: ŋa: (しょうが)
 suikwa (西瓜)
 suŋiŋi: (杉の木)
 dzufikja: (すすき)
 dzufikjampana: (すすきの花)
 8月初旬の先祖祭りで、墓参りなどをするが、
 そのときの ʃibasafi: に使う。
 sutta: (蘇鉄)
 suttanu nai: (蘇鉄の赤い実)
 de:kuni: (大根)
 to: ʔumami: (大豆)
 de: (竹)
 de: nukkwa (竹の子)
 tamanigi (玉ねぎ)
 tʃa: (茶)
 tsubaki (椿)
 tsubaki ju: (椿の油)
 fusu (とうがらし)
 to:gwa (とうがん)

to:kibi (とうもろこし)
 to:mikinja: (こうりゃん)
 tomato (とまと)
 na: (菜)
 nasubi (茄子)
 bira (にら)
 ni:gin (にんじん) ni:dʒinともいう。
 pīru (にんにく)
 nigi (ねぎ)
 tamanigi (玉ねぎ)
 ni:buigī: (ねむの木)
 nui (のり)
 sunui (すのり)
 bafo: (芭蕉)
 basa:nunu (芭蕉布)
 basa:gin (芭蕉着物)
 basannai: (バナナ) basammi: ともい
 う。
 manfiro: (ばんざくろ, ばんじろう)
 naidzakuro: ともいう。
 pappaja: (パパイヤ)
 barampa: (さねん花)
 pī: (ひえ) 田圃に生える雑草。
 ċinoki (ひのき)
 nibu: (ひょうたん)
 ʔasagao (朝顔)
 biwa (びわ)
 fuki (ふき)
 busso: (仏桑華)
 nabarajo: (へちま) 最近では ʔitu ʔu-
 ja: という。
 ※「槇」は無回答。
 matsu (松)
 matsumpa: (松葉)
 matsunnai (まつかさ)

matsunjani (松の脂)
 mamī (豆)
 kʔunifa: (みかん)
 ʃi:ku: (島みかん)
 fi:tu: (島みかん) ʃi:ku: より少し大きい。
 to:ku: (九年母)
 mjo:ga (みょうが)
 muni (麦)
 mu: (藻)
 mumu (桃)
 jase: (野菜)
 janagi (柳)
 junnju (百合)
 junnjuFana (百合の花)
 futsu (よもぎ)
 dzakkjo: (らっきょう)
 dzīmamī (落花生)
 wakame (わかめ)
 wata (綿)
 warabi (わらび)

(5) 自然関係の語彙

ʔare: (あれ)
 ʔama (あそこ, あちら)
 fure: (これ)
 fuma (ここ, こちら)
 ʔure: (それ)
 ʔuma (そこ, そちら)
 dʒare: (どれ)
 dʒa: (どこ, どちら)
 dʒa:kai ʔidʒaka wakaran (どこへ行っ
 たかわからない)
 mē: muki (前向き)
 fuji muki (後向き)

ʔama mukatun (あちらを向いている)
 ʔagari: mukatun (東を向いている)
 tati (縦)
 juku (横)
 ma: juku (真横)
 suba: (傍)
 suba: ni wui (傍にいる)
 pirumato: (平坦)
 pira (坂)
 miGi (右)
 migigawa (右側)
 pidai (左)
 pidaigawa (左側)
 wui (上)
 sa: (下)
 midʒugafira (川上)
 midʒunʒiri: (川下)
 manna: (真中)
 sakasama (逆さ)
 sakadatʒi (逆立ち)
 pana: (頂)
 jamampana: (山頂)
 ximpana: (木の頂)
 jampira: (家の頂) 「家の平」のこと。
 sura は「さとうきびの先」だけに限られて
 いる。
 saki (先)
 ho: tʃu: nsaki: (包丁の先)
 me: (前)
 ja: nu me: (家の前)
 fuʒi (後)
 dundo: ru (自分のところ)
 tʃʔundo: ru (他人のところ)
 suba: (側)
 ʔantʃu suba: kai juruna (あの人の側へ

寄るな)
 fata: (側)
 jaman fata: (山の側)
 me: (人のもと)
 ʔantʃummē: kai ʔi tʃun (あの人のもとへ
 嫁ぐ)
 ʔagari (東)
 kʔutʃi kadʒi (東風, 東南風)
 nifi (西) イリーに当る語はない。
 nifi kadʒi (西風)
 nifi (北)
 nifi kadʒi (北風)
 pe: (南)
 peŋkadʒi (南風)
 makkadʒi (つむじ風)
 te: fu: (台風)
 ʔuʒi kadʒi (追い風) 「押し風」という表
 現。
 ʔiru (色)
 ʔa: ʔiru: (赤色)
 ʔo: ʔiru: (青色) 「緑色」にもいう。
 kʔi: ru: (黄色)
 ʒiru: (白) ʒiru ʔiru: (白色)
 kʔuru: (黒) kʔuru ʔiru: (黒色)
 ʔe: (藍色)
 hadʒa (匂い)
 ssasa (くさい)
 pīssasa (屁のくささ)
 kugari hadʒa: (着物・布などの焼けるに
 おい)
 ʔumuri hadʒa (むれるようなにおい)
 tekka i hadʒa: (ごはんのこげたにおい)
 「おこげ」のことは tekka ja: という。
 tʔana: (間)

ʔa: ɲai (あかり)

ʔagi (陸) 「陸」のほ、海辺の浅いところ
にもいう。最近では使わなくなり、かわりに
ʔuka (陸)を使うようになった。

ʔasasando: (浅いところ)

kʔwasando: (深いところ)

jama (山)

jamanhada (山の肌・尾根)

jama nu pitʃa: sai (山が低い)

ʔuka (丘)

ʃamantʔana: (谷) 「山の二中」という表現。

※「険しい山」は無回答。

ʔabufi (畦)

ʔaddani: (畦の根のところ)

ʔaddani: ʃikjun (畦の根の草を根元か
ら切り取ること)

tan ʔabufi: (田の畦)

paten ʔabufi: (畑の畦)

gana: (穴) 小さい穴

gama (穴・洞窟) 大きい穴

mīgama: (節穴)

muja (洞窟) 志戸桶の村はずれにある。昔
は、風葬の場所であった。洗骨も行なわれた。
戦時中は防空壕になった。

ʔami (雨)

ʔami ɲa futu: i (雨が降っている)

dʒabui (夕立、にわか雨) 時々、サーッ
と降る雨。

nagami (梅雨) 「長期」という表現。

nagamīnu ʔittʃan (梅雨に入った)

nagamīnu ʔaɲatan (梅雨が上った)

ʔamadani (雨だれ)

ʔamadani mīdzu (雨だれ水)

ʔu: mīdzu (大水)

ʔaribate: (荒畑)

ʔarīdʒi: (荒地)

sunammī: (砂地)

ʔiki (池)

ʔiʃi (石)

mē: ʃi (陸にある固い石。表面がなめらか)

to: ku: ʃi: (九年母石) 珊瑚岩の一種。

平板であるが表面がぎざぎざになっていて、
昔はこれでさつまいをすりおろして澱粉を
とった。

九年母は to: ko: という。

habuʔiʃi (畑の中などにある黄味がかつ
た固い石)

garusa: (軽石) 鍋すすを落とすのに用
いた。

沖縄で産する「栗石」はない。

ʔumi (海)

nu: dumai (海中で湾形になっているところ)

ʔufudumai (志戸桶の前の湾) 「大泊」と
いう表現。

mē: dumai (佐手久の下の湾)

ʔukinja: dumai (志戸桶の東方にある湾。
現在はキャンプ場になっている)

sudandumai (志戸桶 ʃi: と小野津 ʔunu-
tsu との中間にある湾)

ma: inami (しけの時の大波。2・3回寄せ
てくる。こわい波である)

bitanagi (大風ぎ)

ʔukinami (沖の方の荒い波)

pīnami (浅瀬に打ち寄せる波)

ʔu: nami (大波)

pi: su (干潮)

mitʃisu (満潮)

ʔuki (沖)

suni (浅瀬)

tumai (湾)
 fumui (海の中でくぼみになっているところ)
 fi: (暗礁)
 mē: (表) ru:fi (裏)
 ?utu (音)
 ?utʃi?akibatē: (開墾地)
 ?aribatē: (草ぼうぼうの畑)
 haŋi (陰) 人影にもいう。
 haŋi:ssa: (木陰)
 dakka (形, かつこう)
 dakka jutasa (形が美しい)
 hamme: (雷)
 hamme:ŋa garagara sun (雷がごろごろする)
 hamme:ŋa ?utitanti:ŋa (雷が落ちたそうです)
 midzu: (川) 流れるような大きな川はない。
 川といえば wuiŋa: があるだけである。
 midzuŋa naŋaritui (川が流れている)
 ?udo: midzu: (大川)
 midzutamai: (水たまり)
 midzu ?idʒi: (水が出る)
 midzu: nubujun (川をのぼる)
 midzu: ?urijun (川をくだる)
 ※「泉・滝」は無回答。
 kani (金)
 kugani (黄金)
 ʃirugani: (銀)
 ?akagani (銅)
 tetsu (鉄)
 k?umu (雲)
 muja (霧) 「もや」に対応。
 ʃiru muja: (白がすみ)
 xibu:fi (煙)
 xibu:fiŋa ?idʒijun (煙が出る)

pana (崎)
 ?utunda: bana: (崎の名)
 takkjampana: (崎の名, 志戸桶の近くにある)
 saki (崎)
 tubbjudzaki (トンビ崎)
 ?usu mīdzu: (潮水)
 dʒi:fin (地震)
 dʒi:fin ŋa tʃa (地震が来た)
 地震のときには to: togarafi (尊加那志) と唱える。
 ナイに対応する語は用いない。
 ʃima (島) 島のほか, 集落・故郷の意がある。
 ts?un ʃima tts?u (余所の島の人, 他部落の人)
 ※「すがた」は無回答。
 suna (砂)
 suna tunna jo: (砂を取るなよ)
 ʃiru dzuna: (白砂)
 suku (底)
 sukunu firusa ja: (底が広いね)
 ta: (田)
 ta:nu ?ussa jo: (田が多いね)
 田圃は ts?u ta: (一田) tʃata: (二田)
 mita: (三田) juta: (四田) のように数える。
 「たぶくろ」のような複数を表わす語はない。
 tīda (太陽)
 tīdaŋa ?aŋajun (太陽があがる)
 tīdaŋa ?atījun (太陽が落ちる)
 tīdaŋa ?ijun (太陽が入る)
 ?asatīda (朝日)
 tē:ru: (台風) 多くは北東から来る。
 he:fi (かえし) 多くは南から来る。

marutama: (玉)	ʔaraʃi (嵐)
tsʔubu (粒)	namihadʒi (浪風)
ʔu: tsʔubu: (大粒)	nami (波)
ʔina: tsʔubu: (小粒)	nami ɣa ʔidʒita (波が出た)
dʒida (地面)	nami ɣa ʔarasai (波が荒い)
tattʃagai: (高い所, 盛りあがったところ)	ʔu: nami (大波)
pikkumja: (低い所)	ʔusu (潮)
mitʃa (土)	mitʃisu: (満ち潮)
ʔa: mitʃa: (赤土)	pi:su: (干潮)
kʔuru mitʃa: (黒土)	pate: (畑)
mitʃandagu: (土のかたまり)	ʔatai (前庭にある畑) 野菜などを植える。
mitʃa: (粘土)	pama (浜)
duru (泥)	pama nu ʔupisa (浜が大きい)
tīn (天)	pama nu pirusa (浜が広い)
pi: (日)	※「はずれ」は無回答。
kju:nu pi:ja naɣasa (今日の日は長い)	ʔumatsu (火)
tsʔuki (月)	kʔwadʒi (火事)
mikadzuki (三日月)	ʔumatsumpana: (ほのお)
naɣkadzuki (七日月)	netʃu (熱)
dʒu:gojadzuki (十五夜月)	netʃu ɣa ta:sai (熱が高い)
rasukadzuki (二十日月)	netʃu ɣa pitʃa:sai (熱が低い)
fufi (星)	ʔa:ɣai (光, あかり)
tugaja: (尖ったもの)	ʔa:ɣai ɣa tsʔusa ja: (光が強いね)
kadu (角)	ランプや電気の光も同じ。
sumi (隅)	rudi: (いなびかり)
saɣkaku: (三角)	kʔurasumi (闇)
ʃikaku: (四角)	hanifa: (光でうつる人の影)
makkaku: (真四角)	ʔa:fidui (6月頃のひでり)
mammaru: (丸)	roggwatsu ʔa:fidui (6月ひでり)
marusan (丸い)	ʔa: jama ともいう。
jusumi (四隅)	jimpo: (余所の部落, とくに佐手久・小野津・渡などを指す)「遠方」か。
kʔindʒu (近所, 隣)	jimpo: ʔidʒikura (余所の部落へ行って来よう)
duru mīdzu: (どぶ水, どろ水)	
turi (風)	

- tsʷunfima (ひとの島)ともいう。
- ʔaja (ひび)
- ʔaja ɣa kakitun (ひびわれが入っている)
- wariʔafiki (ひでりのため田が干あがって出来るひび割れ)
- ma:ru: (丸)
- getta ma:ru: (手まりのこと)
- piratto: maru: (せんべいのような薄くて丸いもの)
- ma:ru:sai (丸い)
- mīdzu (水)
- tsʷu ju (露)
- ʔawa: (泡)
- ʔawa ɣa kʷi:ra:ja: (泡が消えないね)
- nurumaju: (白湯) naruju: ともいう。
- ʔasuki (湯気)
- midzu: (溝)
- juguri mīdzu: (汚れたどぶ水)
- ha: (井戸)
- na: nu mīdzu (井戸の水)
- tamiki (溜め池)
- mitʃi (道)
- fusumitʃi (細道)
- ʔu:do: mitʃi: (大道, 県道)
- jama mitʃi (山道)
- ʔabuʃi mitʃi (畦道)
- paʃi (橋)
- ju: (湯)
- furu: (風呂)
- furu: nu ju: (風呂の湯)
- furu: nu ju: dʒi ʔamiri jo: (風呂の湯で浴びよ)
- kujumi (暦)
- ʔitsu (いつ)
- ʔitsu kju: su jo (いつ来るか)
- ʔikkampi: (何日)
- ʔikkampi: ʔikusu jo (いつ行くか)
- mukaʃi (昔)
- mukaʃi tsʷuntʃa: (昔の人達)
- ʃitsu (季節) dʒiki (時季)ともいう。
- tani maki nu dʒiki (種蒔きの時季)
- ʔaru (春)
- natsu (夏)
- ʔaki (秋)
- fuju (冬)
- kantʃu: (真冬)
- ʔatsusa ja: (暑いね)
- pi:sa ja: (寒いね)
- ʔuridzumu (5・6月頃)
- ʔuridzumu duki (収穫の時期)
- pi:bin (毎日)
- pi:bin pataratʃi (毎日働いた)
- dʒo:su: pataraki (毎日働く)
- ʔisso:mu pataraki (一生涯働く)
- kʔaman kadzu (毎朝)
- kʔaman kadzu pē:sa wuīru (毎朝早く起きる)
- jurun kadzu (毎晩)
- jurun kadzu wuītun (毎晩起きている)
- pittʃi: ʔoki (一日おき)
- pittʃi: ʔoki ni wuitu so: ja: (一日おきに起きているね)
- junsagē: (一晩中)
- junsagē: nibbammui (一晩中寝ない)
- pittʃi: fidʒu: (一日中)
- pittʃi: fidʒu: hatarakikatabe: (一日中働いている)
- mīʃimmadʒu: (午前中)

mifimmaは「午前中, 12時頃まで」を表わす。
juʔakidafi (午前四時頃働きに出ること)

pimma: (午後)

njama (今, 今さっき)

njama tʃan do:ru (今来たところ)

njama saki (今さっき)

mē: (前)

ʔatu (後)

ʔatuntʃa ʃiro: ja (あとに為よう)

njama uru: (この頃)

mē:ni (この間)

mē:ni kʔitʃan (この間, 聞いた)

na:tʃa (翌日)

ʔatumpi: (あとの日)

ʔatʃasatti (あすあさって)

juʔakimē: (夜明け前, 夜3時頃)

juʔaki (夜明け, 午前4時~5時頃)

ʔa:tuki (暁)

ʔa:tuki wui (早起き)

kʔamma (早朝, 朝7時頃)

『混効験集』には「すかま 四ツ時分」とある。

「早朝」を「すかま」という地域は、奄美大島地域を中心にひろがり、沖縄北部伊平屋島、伊江島までひろがっている。

沖縄中南部およびその属島では「すとめて」(早朝, つとめて)が優勢で、「すかま」はほとんど用いられない。ただ, ʃʔufikama ʃigutu (早朝の一仕事) <奥武> のように熟語の中に残っている。

宮古では「すかま」は夜に対して, 明かるい昼の時分をいう。

八重山では, 「すかま」は「仕事」の意に転じている。

maʃimma tʔana: (昼, 11時~3時頃まで)

pimma: (昼間) maʃimma より後。3時~5時。

jugkʔuri (夕暮)

jugkʔurijun (日が暮れる)

juru (夜)

juna: (夜中)

majuna: (真夜中)

kju: (きょう)

ʔaʃa (あした)

ʔasati (あさって)

jo: (しあさって)

jonna:tʃa: (五日あと) 六日あとからは特に名称がない。

kʔinju: (きのう)

wutti: (おととい)

jo:nati: (さきおととい)

五日まえからは特に名称がない。

kʔa(m)ma (今朝)

ʔaʃakkʔama: (明朝)

ʔasatikʔama: (三日目の朝)

kʔinukkʔama: (昨朝)

wuttikkʔama: (三日前の朝)

jo:ne: (今夜)

ʔaʃan jo:ne: (明晩) ʔaʃan juru: ともいう。

ʔasatinu jo:ne: (明々晩)

kʔin juru: (昨晚) jubī ともいう。

wuttin juru: (一昨晚)

ʔuntsʔuki (今月)

tʔattsʔuki (来月)

mēntsʔuki (先月)

kutufi (今年)

jani (来年)

janʃu (再来年)

fudʒu (去年)

mitsunati: (一昨年)

jutsunati (四年前)

fo:ɣaddzuki (一月)

nigwatsu (二月) nigwaddzu: (二
月中)

saɣgwatsu (三月)

ʃigwatsu (四月)

gugwatsu (五月)

ruggwatsu (六月)

ʃiʔigwatsu (七月)

haʔigwatsu (八月)

kʔuɣatsu (九月)

dʒu:gwatsu (十月)

ʃimutsʔuki (十一月)

ʃiwafi (十二月)

十一月と十二月については、和名が用いられ
る。tufimban (大晦日) 新しくは tufin juru:
ともいう。

tʔitsu (一つ)

tʔa:tsu (二つ)

mi:tsu (三つ)

ju:tsu (四つ)

ʔitsutsu (五つ)

mu:tsu (六つ)

nanatsu (七つ)

ja:tsu (八つ)

kʔu:nutsu (九つ)

tu: (十)

dʒu: ʔiʔi (十一)

nidzu: (二十) patatʔi (二十歳)

sandʒu: (三十)

ʃidʒu: (四十)

godʒu: (五十)

rukudʒu: (六十)

nanadʒu: (七十)

faʔidʒu: (八十) p と F が用いられる。

kju:dʒu: (九十)

fjaku (百)

niɾjaku (二百)

sen (千)

man (万)

ʔʔui (一人)

tʔai (二人)

miʔai (三人)

jutai (四人)

gunin (五人)

dukunin (六人)

ɕiʔinin (七人)

faʔinin (八人)

kʔunin (九人)

dʒu:nin (十人)

ʔikkai (一回)

nikai (二回)

ʔʔusara (一皿)

tʔasara (二皿)

ʔʔuma:i (一碗)

tʔama:i (二碗)

ʔikutsu (いくつ)

da: tuse: ʔikutsu jo (君の年はいく
つか) mi:tsu jo (三歳よ)

ʔʔansa (いくら)

ʔʔansa sui jo (いくらするか) 値段。

ʔʔansa dimu kʔuriri jo: (いくらでも
呉れ)

tʃʔansa ʔai ja (いくらあるか)

çinnja (全部)

çinnja kʔuririba (全部呉れ)

hataʃi: (片方)

hataʃi: paʃi: (片方の箸)

hataʃi: ʔassa: (片方の下駄)

pambun (半分)

pambunna: we:ri (半分ずつ分けよ)

nibai (二倍)

çinnja (これだけの大きさ)「全部」の意にもなる。

çinnja kʔuriri jo: (これだけ呉れ)

十二支

nī: (子) ʔufi (丑) tura (寅)

ʔu: (卯) tatsu (辰) mi (巳)

ma (午) pʲiʔsudʒi (未) saru (申)

tui (酉) ʔin (戌) ʔi: (亥)

(6) 飲食関係の語彙

munsaru: (朝食)

mun (昼食) 古くは pimmadʒiki といった。本来「食事」一般をさした mun が、「昼食」に限定されて用いられるようになった。

ʔaʃi: (午後3時頃の食事)

ju:ban (夕食)

kamjummun (食物)

madumun (間食)

daijamī (晩酌)

ʔadʒi (味)

munnu ʔadʒi (食物の味)

ʔumasai (おいしい)

ʔumasa ne: (おいしくない, まずい)

kamara: (食べられない)

ʔamidama (飴玉)

ʔan (餡)

ʔan tʃʔundi ʔiriten (餡を包んで入れてある)

ʔudon (うどん)

hatimun (おかず)

ʔittʃa:ʃi: (煎ったもの)

tekkaja: (おこげ)

katsu:buʃi (鰹節)

kamaʔuku (かまぼこ)

pammē: (食物)「飯米」に対応する。

butampammē: (豚の餌)

ʔumammē: (馬の餌)

tuinumē: (鳥の餌)

食物一般は munu または mun ともいう。

ku: (粉)

kʔuna とも, kʔudʒu: ともいう。

mamʲiku: (きな粉) hattaiko ともいう。

mutʃikugwaʃi (餅粉菓子)

su:kī (ごちそう)

su:kī tsʔukkī (ごちそうを作る)

tuimutʃi (もてなしをする)

ʔubani (米のごはん)

munibani (麦ごはん)

ʔawabani (粟ごはん)

pansn: (芋ごはん)

kaji: (お粥)

munikaji: (麦かゆ)

fumikaji: (米かゆ)

ʔawakaji: (粟かゆ)

pansu: dʒiru: (芋のおつゆ)

fumī (米)

sakumē: (うるち米)

mutʃigumī (もち米)

sə: (酒)

ʔudʒaki (おさけ)

sə: numja: (大酒飲み)

jamaFui sui (酒を飲んであばれる)

jamaFuja: (酒ぐせが悪く、あばれて散らかす)

satta: (砂糖)

namasu (刺身) 魚などの刺身だけではなく、
「酢のもの」もすべて含まれる。

masu (塩)

masu harasa: (塩がからい)

ʔusu midzu: (潮水)

fo:ju (醤油)

fo:i ʔadʒi: (しょうゆの味)

ʔadʒagarasa (醤油の味が辛いもの)

fufu (とうがらし)

fufu nu fa:fa: sui (とうがらしが辛い) harasai は用いない。

pēi (酢) 沖縄でいうアマザキは用いない。

pēi nu su:sai (酢がすっぱい)

sembe: (せんべい)

du:ʃi: (雑炊)

misugai (味噌で作った雑炊) 昔はこれが多かった。

du:ʃi: (醤油で作った雑炊) 新しい。

tabaku (たばこ)

tabaku numja: (たばこを吸う人)

tabaku miso:ja: (たばこを召し上る方)

tabaku Fukjui (たばこを吸う)

numjui ともいう。

kʔiti: (きせる)

tabakkʔiri: (たばこ入れ)

jani (きせるやに)

kʔiʃi: sare: (きせるをさらう)

tababun (たばこ盆)

tababun muttʃi ku: jo: (たばこ盆を持って来いよ)

pe:buki (灰を落とすもの)

pittuja: (火入れ)

tsʔumikʔiri: (だんご、お汁にだんごを入れたもの)

ʃa: (茶)

ʃa: miso:ri (お茶を召し上れ)

ʃabafira (茶柱)

ʃabafira nu tattʃan (茶柱が立った)

ʃanhasu: (茶がら)

kʔimun (漬物)

nasuki (一夜漬け)

dē:kuniŋkʔimun (大根の漬物)

pappaja:kʔimun (パパイヤの漬物)

ʔabbagi: (油あげ) 「てんぷら」 一般をいう。魚のフライにもいう。

tonnasu: (おから)

kʔirasu ともいう。

bunin ʔiju (生の魚)

mi:ʃiʃi (生肉のこと)

nama Fansu: (生芋)

nama Fumi (生米)

mandʒu: muttʃi: (饅頭)

watabu: (満腹、大腹)

wata ʔippē: kadan (腹一杯食べた)

watabu: ʃi (腹一杯になって)

ʔa:nibai (大食い)

misu (味噌)

misu tsʔukki (味噌を作る)

ho:dʒi (こうじ)

ho:dʒi tsʔuki (こうじを作る)

muttʃi: (餅)

ʔujafi (もやし)

jakjun (屠る) 本来は「焼く」に対応する

語であるが、豚や山羊を「屠る」ときに「焼く」ところから、「屠る」一般の意味に転じたものである。現在では、実際に「焼く」とがなくても jakjun という。

(7) 衣服関係の語彙

ʔitsu: (糸)

kʔinu ʔito: (絹糸)

ʔitsu: (縫い糸)

padzuku (いれずみ)

「いれずみ」は費用がかかるため金持の人が多くほった。

ʔofiroi (おしろい)

ʔofiroi kʔite:i ja: (おしろいつけてある)

kamai: (おしゃれ)

kʔwa muja: kʔitsubi (おぶい紐)

hasa (笠, 傘)

ʔamagasa (雨傘)

tidahasa: (日傘)

daggasa (こうもり傘)

kappa (合羽)

minju (蓑) 藁草で作ったものが一般的である。

kasui (かすり)

kasui kʔin (かすりの着物)

tisaku (木綿で作った着物) 蘇鉄の葉で柄を作り、藍色を染めた。

kʔutsunafi: (くちなしの実で染める黄色の染料)

tuikiri: (大島かすり) 型を染めた糸。

gira: (かんざし) gi:fa: とも。

kandzafi: (かんざし) ともいう。

kʔinu (着物)

ʃimatarabi: (ふだん着)

kjurakʔinu: (よそいきの着物) 「きれいな着物」という表現。

juʔʃakʔinu: (仕事着)

dungwa: (ぼろ着) つぎはぎをしたもの。沖縄でいうフクターはない。

sudittʃa: (袖なし)

ʃibai kə:mun (おしめ)

dʒiban (肌着)

mīfuta (眼鏡)

batʃi: (ももひき)

mompe: (もんぺ)

pakama (袴)

ʔuwagi (上着)

muʃibofʃi (虫干)

ʔittʃoroi (上等の着物, 一張羅)

jeri (襟)

kʔinnu kʔubi: (襟) 「着物の首」という表現。

sudi (袖)

fuduko: (ふところ)

ti: puduko: (ふところ手)

pau: (羽織)

ʃantinna: (はんでん)

manto: (外套) gwaito: ともいう。

wataʔiri (綿入れ) nennegko ともいう。

kʔitsubi (帯)

『おもろさうし』では『きゝおび』と用いられている。

ʔubi (広帯)

ge:toru (きやはん) kja:ʃan ともいう。

sabaki (櫛)

kʔuʃi (梳櫛)

ʃʔutsubigka: (腰紐)

kinʃaku (財布)

hanibukku: (財布, 金袋) 首から紐でつるした。

kʔinuno:ni (裁縫)

maidʒu: (尻はしより)

ko:sai (交際)

sekenʃiradzu: (世間知らず, 交際の悪い人)

fattu: (頭巾)

sadʒi (てぬぐい)

tinugi: ともいう。

ʔuʃukkwī: (ふろしき)

takī (丈)

kʔinnu takī (着物の丈)

tadzuki (たすき)

bindare: (鹽) せんたくだらい。金製のものである。

tare: (桶のように木で作ったたらい)

gusani (杖)

tibuku: (手袋)

durumamisa: (どろだらけ)

nunu (布)

nunuʔuja: (機織り子)

kʔimun (反物)

nui (糊) 着物に入れた。

pakimun (履物)

kʔumjummun (履物) ともいう。

kutsu (靴)

ʔassa: (下駄)

safigeta (高下駄)

saba (草履)

warasaba: (わらじ)

tabi: (足袋)

ʔassanwu: (下駄の緒)

pana wu: (鼻緒)

pada: (裸)

pada: nara: ja: (裸になる)

harappja: (裸足)

ta:sabiʃa: (片ちんば)

Funato:maki (ほおかむり)

mē:dari (前掛け)

minju (蓑)

mīgani (めがね)

muminnunu (木綿布)

tiggani (指輪)

jo:su (容姿)

kjuramun (美人)

sampatsuja (理髪店)

sampatsu (散髪)

(8) 住居関係の語彙

ja: (家, 屋)

ʔuʃin ja: (牛小屋)

ʔuman ja: (馬小屋)

jagin ja: (山羊小屋)

butan ja: (豚小屋)

tunniu ja: (鳥小屋)

su: (巢)

jammē: (庭)

janʃuʃi: (裏)

sumi (屋敷の隅)

janna: (家の中)

kudʒa (家の奥にある床の部屋)

ja:nu mawai (家の周囲)

ja:no:i (移転)

ja:no:i sui (移転する)

gajaja: (かやぶきの家) gajabuki ともいう。

nukinsa: (軒下)

ʔamadani (ひさし)

nike:ja (二階建の家)
 kawara ja: (瓦ぶきの家)
 jamaŋa: (薪を入れる小屋)
 pansuni:ja: (芋をたく小屋) kusumutu
 : ともいった。

kandzu (便所) 「閑所」の移入語。
 janisso: ともいう。

munfi: jaŋkwa: (炊事場)
 ʔamĩmui (雨漏り)
 ʃikini (椅子)
 柱の切れはし等で作った低くて坐るもの。

kʔumidai (踏み台)
 ha: (堀井戸)
 jadugutʃi: (入口)
 ruʃimmiʃi: (裏口)
 jiggaŋa (縁) jin ともいう。
 kaidan (階段)
 mawai (垣まわり) janhaki ともいう。
 haki sun (垣をする)
 kagi (鍵)

kagi ke:jun (鍵をかける)
 hamadu (かまど)
 mitsumun (土のかたまりを切って作った
 かまど。固い自然土で作る。石は火に当たる
 とやけてくずれる)

※「鴨居」は無回答。

kaja (蚊帳)
 garasu (ガラス)
 kawara (瓦)
 kʔura (倉)
 takagura (高倉)
 ʔutʃi (味噌がめを置くところ)
 ʔutʃinu misugami (ウチの味噌がめ)
 kudʒa (家の裏にある寝所)
 ※「玄関」は無回答。

gumi (ごみ)
 hanaŋkudzu (屑)
 ʃiki: (敷居)
 ʃo:dʒi (障子)
 dʒiru (地炉)
 dʒirufata: (炉ばた)
 現在では「地炉」はなくなった。

su: (巣)
 tunnju su: (鳥の巣)
 butansu: (豚の巣) 藁などを入れた豚の
 ねるところ。

jaginsu: (山羊の巣) 山羊の踏みつけた肥
 料のこと。

mampikja: (蜘蛛)
 mampikja:nu su: (蜘蛛の巣)

susu (煤)
 susu ʔutufi (煤を落とす)
 susu faki (煤を掃く)
 so:dʒi (掃除)
 ja: fuki jo: (家を掃除する)

tatami (畳)
 tansu (たんす)
 fikidafi (ひき出し)
 tukummē: (床の間)
 tindʒo: (天井)
 jadu (戸)
 jadu kʔutʃa:ʃi (戸を締めよ)
 jadu ʔe:ri (戸を開けよ)

famadu (高窓)
 tubukkʔwa (戸袋)
 midʒu: (戸通しのみぞ)
 tudana (戸棚)
 dude: (土台)
 munuʔuki (納屋)
 paʃigu (梯子)

paʃira (柱)

pajaともいう。

puninu paʃira (帆柱)

pu: pan (帆を張る)

janʔubī (壁)

「家の首」という表現。

munʃi: ja: (台所)

putsuma (ふすま)

butsudan (仏壇)

ʔujaʔudʒi (先祖)

ʔinabja: (小部屋)

ʔomotedza (表座敷, 客間)

nakadza (居間)

kudza (裏部屋)

間は tʔuma (一間) tʔama (二間)

mima (三間) のように数える。

kʔumitʃi (踏み石) 縁側の上り口に置く石。

kʔumifiともいう。

dʒo: (門)

ʔatai (屋敷全体)

jampira: (屋根)

mē:mpira: (屋根の前側の棟)

fufimpira: (屋根の後側の棟)

ʔittʃa (葺) 屋根の上棟の部分。

jansumi: (屋根の角のところ)

juka (床)

jukassa: (床下)

jida: (竹床をささえる台木)

(9) 道具関係の語彙

habufiri: (頭あて) 頭に物をのせるとき、
すわりを良くするために用いる道具。普通は
藁でドーナツ型に作る。沖縄ではガンシナと
いう。

語源は「被り尻」であろう。

ʔita: (板)

ʔitabja: (板切れ)

munʔiri: (物入れ)

ʔirijummun (入れるもの)

ʔikada (筏) 芭蕉の幹を4~5本組んで作
ったもの。

ʔusu (臼)

tʃo: su (磨臼, 石臼) 「唐臼」か。

ʔadzumu (杵)

to: ni (石で作ったもので芋を洗ったり、
野菜を洗ったりする容器) 豚の餌入れにも
いう。「田舟」からの語であろう。

ssa (草) 牛・馬の食用。

ssabaku: (草箱) 牛・馬の飼葉桶。

ʔumammē: baku: ともいう。

kunibu: (馬をつないでいる小屋)

kʔura: (鞍)

ʔumapʔkʔura: (馬の鞍)

ʔuʃipʔkʔura: (牛の鞍)

ʔumuḡē: (馬のおもがい)

panawa (牛の鼻輪)

panawu: (牛の鼻につないだ綱)

ʔo: ni (扇)

ʔutʃifa (うちわ)

wui (桶)

taggu (小桶)

taru (樽)

kuiwui (肥桶)

kuitaggu (肥を入れて運ぶ桶)

kuinibu: (肥を汲み出すひしゃく)

dzumja: (斧)

dzumjapʔkwa: (小斧)

wunu (大斧)

hagami (鏡)

- magu: (蓋の付いている籠)
 monsudamafi magu: (つるす柄の付いた
 籠で、涼しいところにつるして物を保存する)
 hatana (刀)
 santuku (金槌)
 jandzuŋfi (木製の槌) 家を建てる時に
 木材を叩くの用にしたり、土手をきずくと
 きに用いる。
 kanadzuzŋfi (ハンマー)
 hama (鎌)
 ssatui hama (草刈鎌)
 ʔinihai hama (稲刈鎌)
 pagama (釜)
 munfi:gama (かまど)
 ta:ra: (かます)
 kamagi: (藁で作ったかます)
 tʃo:ʃinu: (大豆などを入れるもの)
 ʔampira: (あんびら袋)
 kamisui (かみそり)
 hamī (甕)
 mīdzu hamī (水甕)
 sē: hamī (酒甕) 小さく焼酎を入れた
 もの。
 turagamī (大甕)
 misu hamī (味噌甕)
 pandu: (大甕、口が大きい) 水甕として用
 いる。
 hanna (匏) hana ともいう。
 ʔadzumu (杵)
 tsukiʔadzumu (搗き杵)
 ʔiri (錐)
 ʔiri dʒi gana ʔakijui (錐で穴をあけ
 る)
 hakiŋi: (杭) 「垣根」に打つ杭。
 ʒi:kʔuni: (木釘)
 kʔuni (釘)
 de: kʔuni: (竹釘)
 kʔwe: (鍬)
 tʔamata kkʔwe: (二又の鍬)
 pira kkʔwe: (幅の広い平の鍬)
 ʃimakkʔwe: (幅の狭い鍬)
 jamatukkʔwe: (大和鍬。幅が広い)
 gudʒa (墓蔭) mussu (むしろ) が一般
 的。
 rumu (藁で編んだ大型のむしろ)
 穀類を干したりするもの。
 kʔummambo: (車棒)
 干した豆をたたいて実を取るのに用いる。
 gumituimun (ごみとり)
 gumu (ゴム)
 dze:muku (材木)
 de: (竿、竹)
 mumpufi de: (物干竿)
 tsʔuku (杯)
 sadʒi (匙)
 tʃu:dzara (皿)
 kudzara (小皿)
 ʔuse:batʃi (大皿、盛り合わせるもの)
 dumbui (どんぶり)
 soŋkwa: (小さいざる)
 so:wī (大きいざる。芋を洗ったりする)
 sambara: (浅いざるで米を入れるもの)
 piragi (芋を入れて背負うかご)
 piragiŋ wu: (ピラギの緒)
 tiggama: (魚籠、釣りに持っていくざる)
 sakufi (杓子)
 mīʃige: (しゃもじ)
 ʃiddzakufi: (汁杓子)
 dʒu:baku (重箱)

dʒo:gu (じょうご)

※「水車」は無回答。

suki (鋤)

kamagi: (炭俵)

suribatʃi (すりばち)

surukʔuni (すりこぎ)

seiru:baku (せいろ)

mufikata (蒸すこと) musun (蒸す)

muttʃi: muso: (餅を蒸そう)

ʔadzuki mʃi (赤飯)

dampo: (ランプ)

kasadampo: (傘のあるランプ) pakurai
ともいう。

pu:nadampo: (舟ランプ)

kantera (石油燈の石油を入れるところ)

fiki ju: (石油)

dʒinu (膳)

dzo:kin (雑巾)

fukin (ふきん)

dakkokki (脱穀機)

ʔinikʔuda: (櫛の目のようになっていて、
稲の穂をかけて落とす)

麦の石に穂をたたいて実を落とした。

tare: (盥)

to:fudare: (桶の大きいもの)

tawafi (たわし)

tansu (たんす)

ʃade: (茶台)

sukude: (机)

tsʔuna (綱)

waradzuna: (藁綱)

nawa (縄)

surunawa: (棕櫚縄)

tsʔunnuhafi (つるはし)

ti:ri (手入れ)

tigara (てこ)

tippu: (鉄鉋)

ʔo:ko: (天秤棒)

mʃdzu hatamjun (水のかつぐ)

taggu hatamjun (桶のかつぐ)

tukkuja: (徳利)

saʔgo:bin (三合びん)

jammutʃi (とりもち)

dumbui (どんぶり)

nabi (鍋)

ʔuʃunabi (大鍋)

ʔinanabiʔkwa: (小鍋)

nabi pindu: (鍋すみ)

pindu:bo: (うすよごれた男の子)

pindu: mai: (うすよごれた女の子)

昔は夜、赤坊を外出させるときには魔除けとして額に「鍋ずみ」をつけた。同じく魔除けとして鋏や包丁を持って歩いた。

昔は、産婦の枕を庭に投げて新生児の縁を占った。枕が遠くまで行ったら遠方からの縁があり、近ければ近いところからの縁があるとした。

nabi ji:ʃi: (鍋敷)

tammu (薪) 草や枯葉などごみのような細いもの。

gi:dʒi: (小枝のような薪)

ʔu:do:gi: (大きな割った木)

mittu: (燃え残り)

sumi (炭)

ʔuki: (炭火)

juni (灰)

ʔaku (灰のすまし水)

dʒiruʃata:nu juni (地炉の灰)

nuku (鋸)

nukumpa: (鋸の刃)

nukupkʔudzu: (おが屑)
 numi (鑿)
 nui (糊)
 pi:waji (火ばし, 灰搔)
 pi:kusa: (火起こし)
 pa:i (秤)
 pa:inu mi: (秤の目方)
 paku (箱)
 pasami (鋏)
 timutu (箸)
 ʔuse:batʃi (料理を盛る大皿)
 pai (針)
 pannju mi: (針の目)
 paigani (針金)
 nibu (ひしゃく)
 kote (火のし)
 pibatʃi (火鉢)
 fukin (布巾)
 pukku (袋)
 piʔta (蓋)
 nabīn piʔta (鋸の蓋)
 pira (製糖のとき, 鍋の縁に付いた砂糖を
 はがすへら)
 xiʔʔi (製糖のとき, かきまぜる木)
 xinju: (かきまぜる)
 ʔudu (ふとん)
 最近では futun という。
 dzabutun (座ぶとん)
 ʔinnja:ni: (ぶらんこ)
 funnjama: (竹で編んだ篩のようなもの)
 稲刈りのときや大豆の取入れのときなどに用
 いる。
 kʔimbui: (篩) 金網で作った目の細かい
 もので糠をえり分けるものに用いる。
 jui (竹で編んだもので, 粟などをふるい分

ける道具)
 ʔuʔukkwɪ: (ふろしき)
 po:ki (箒)
 po:ʔu: (包丁)
 butto: (棒) 六尺棒
 buttoḡkwa: (小さい棒)
 てんびん棒は ʔo:ko: という。
 makkwa (枕)
 maga (馬鍬)
 kjo:ban (枧) 一升枧にいう。
 go: (一合枧)
 guʔʔo: go: (五合枧)
 manatʃa (真魚板)
 tsʔukigi (マッチ) 最近では mattʃi: と
 いう。
 sambara: (箕)
 円形のもので, 穀類をえり合けるもの。
 munnjara: (麦藁)
 wunnjara: (さとうきびの収穫をした残り
 のから)
 mussu (筵)
 mussu ʔami (筵を編む)
 ʔo:da: (もっこ) 馬の鞍に6個から8個ぐ
 らい積んで用いる。
 hatami ʔo:da: (担いで用いるもっこ)
 munusafi (物差し)
 ja: (矢)
 jumija (弓矢)
 jakkwan (湯わかし)
 tsʔuka: (急須)
 dampo: (ランプ)
 fuja (火屋)
 dʒimi (ランプの芯)
 do:suku (ろうそく)
 ma:i (碗)

ʃiddʒawan (汁を入れるもの)
 miʃiddʒawan (ごはんを入れるもの)
 ʃiːmun wan (吸物を入れるもの)
 tʃadʒawan (湯呑)

ʔami (網) 昔は ʔamida といった。

ʔika kʔwafi (鳥賊釣り)

ʔikai (錨)

ʔuki (浮標)

joː (櫂) 櫓はない。

ʃinduː (船頭)

tumu (艫)

ʔijumaguː (魚籠)

funi (舟)

funiŋkwaː (小舟)

sabaniː (沖縄独特の小型船)

katsuːbuniː (鰹舟)

funiŋumutiː (舳先)

fuː (帆)

funiŋ fuː (舟の帆)

fuː kēːti ʃaʃirasun (帆をかけて走らす)

tunja (鋸)

ʔisusaː (漁師) 舟釣り, 磯釣りをする人にもいう。「磯為る者」という表現。

ʔi jukʔwasaː (磯釣りをする者)

funasusaː (舟釣りをする者)

(10) 労働関係の語彙

ʔamma (あんま, 按摩)

ʔamma tujui (あんまをとる)

ʔisasama (医者)

ʔinihai (稲刈り)

ʔiniFuʃi (稲干し)

taː ʔuī (田植え)

ʔuitsuki (植え付け)

ʔuiduki (植れ時期)

ʔuniː (畝)

※「おまけ」は無回答。

joʃʃaː (かけ声)

makijun (まける。値引きをする)

ʃijaːʃijaː (労働のかけ声)

kadʒija (鍛冶屋)

hani (金) dʒigani (地金)

hanimuʃi (金持)

※「狩人」は無回答。

jassuː duʃi (僅の年)

xīː kʔijaː (樵夫)

※「凶年」は無回答。

hani (金銭)

kudʒin (小銭)

ssatui (草刈り)

suijaː (薬屋)

gekkjuː (月給)

ʃiː wakiː (小作)

ʃiwakiːsaː (小作人)

moːrēː (乞食)

tsʔikēːdʒin (小遣錢)

fumiʃa (米屋)

dʒaisan (財産)

ʃuteː (世帯)

tsʔukuimun (作物)

sataːʃiː (砂糖製造)

kʔumma (車) 砂糖製造用の車。牛・馬の力で回し、砂糖きびを車にかませて汁をしぼり、これを煮つめて黒砂糖を作る。

saːtaːdʒiki (砂糖時期) 12月から4月頃まで。

ʃigutu (仕事の総称)

- waku (田・畑を鋤で耕^こ転すること)
 ta:ʔuʔi (田耕し)手で耕すこと。
 rate: ʔuʔi (畑耕し)手で耕すこと。
 ji: taba: (ゆい, 労働交換)
 junabi (夜仕事)
 rate: nufi: (地主)
 fusai (借金, 負債)
 muʔiʔuisa: (行商人)
 ʔakine:sa: (商店に買物に来る人)
 magarujaʔi (馬鋤で田をならす。しろかき)
 ta:ʔuʔi (田植え)
 ta: ʔuʔi (田起こし)普通は鋤を用いる。
 ta:suki (田起こし)鋤を用いる。
 tarata (田畑)
 se:kusa: (大工) se:ku ともいう。
 kujaji (堆肥)
 tanimaki (種蒔)
 tamiki (溜池)
 rumida:ra: (米俵)
 tsʔui (釣り銭)
 kaji: (手伝い) 「加勢」という表現。
 tinare: (手習い) 学校へ通うこと。
 pima (手間, 暇)
 nai (苗)
 tanida: (苗代)
 ※「鳴子」は無回答。
 kagaji (かかし)
 naʔgisa (難儀)
 naʔgisa (難儀さ)
 darita (疲れた)
 nidan (値段)
 rjakufo: (農業)
 dʒu:rija (飲み屋)
 pate: (畑)
 parajui (払う)
- ʃiʔare: (支払い)
 ʔʔimmē:dui (日雇い)
 kujaji (肥料)
 ʔumaʔkujaji (馬肥)
 jagiʔkujaji (山羊の肥料)
 bimbo:mun (貧乏者)
 ʔukkwī mun (財産を失った者)
 ʔukkwita は「失敗した。失った」の意。
 buginsadufi (豊年) bugin ともいう。
 tʔansaku (間作)
 ma: ʔuʔi (株を植えかえること)
 wakikata (間引き)
 mifija (店)
 munimaki (麦蒔)
 mutʔi: tsʔuki (餅つき)
 jaduja (宿屋)
 jannufi: (家主)
 ta: ʃigutu: (田仕事)
 pate: ʃigutu: (畑仕事)
 jama ʃigutu: (山仕事)
 jamasa (樵夫)
 ʒima:ja: (罌) 「ねずみ」を取るのに用いる。
- (11) 祭遊関係の語彙
- matsui (祭りの総称)
 to:tugarafi: (尊加那志) 祈る言葉。
 nurusama (のろ) ʔa:tito: ともいう。
 kamisama (神様)
 bakē:mun (ばけもの)
 madʒamun (木の精) キンモンとは言わない。
 tama:ʃi: (魂) 人魂。火魂。
 ʔamaʔi: (雨乞)

ʔamaŋi: sun (雨乞をする)
 ʃo:gwatsu (正月)
 kadumatsu (門松)
 gwanʃo: (元旦)
 wakamīdzu (若水)
 ʔotoʃidama (お年玉) 最近, 使われるようになった。
 ɕigan (彼岸)
 saggwansanʃi (三月三日)
 futsumuʃi (よもぎ餅)
 gugwatsu uniʃi (五月五日)
 ruggatsudo: (六月堂まつり)
 bun (盆)
 ʃimaʔasubi (豊年祭) 八月十五日に相撲をとったり, 八月踊りなどをする。
 kugwatsu dzu:guniʃi (九月十五日のまつり)
 tuʃimban (大晦日) tuʃin juru: ともいう。
 ʔife: (位牌)
 paka (墓)
 pakammē: (墓参り)
 tīrammē: (寺参り)
 ※「地獄」は無回答。
 tiŋgoku (天国)
 ※「極楽」は無回答。
 so:ri: (葬式) ダビは用いない。
 kʔwaso: (火葬) 最近用いるようになった。
 so:ri: (土葬)
 tudʒimurai (妻をもらう。結婚する)
 ja: tatʃi (夫をもつ。結婚する)
 wa:rijui (離婚する)
 mēntudʒi: (先妻)
 ʔatuntudʒi: (後妻)
 jantudʒi: (正妻)

niŋguru: (めかけ) ユーバーは用いない。
 jimmusubi (結婚式) 昔は se:mui と言った。最近は onso: ju:we: という。
 ganso: は「男女の性交」を言う語で, 戦後用いるようになったという。
 ʔuta (歌)
 ʔabuʃiga: (畦をうたった歌)
 ʔabuʃigwanu mīdzuja (畦の水は)
 ʔusaŋiriba tumati (おしあげれば止まる)
 dzu:ʃiʃiʃaʃi mirabīja (十七, 八女童は)
 ʔasubi tumiraran (遊び止められない)
 gettauki (毬を投げて遊ぶ)
 hamaʃikame: (紅・白二軍に分かれて頭をさわり合う遊び) 頭をさわられた方が負け。男子だけの遊び。
 ma:sa:ʔuki (丸太を輪切りにして投げ, 二手に分かれて飛ばし合う遊び。男子だけの遊び。)
 ʔifa (五寸ぐらいの木の枝の両側をけずって尖らし, その一方を叩いて本体を上へもちあげ, あがったところを打って飛ばす。遠くまで飛ばしたほうが勝ち)
 tako (凧)
 ʔoʃito: (おてだま)
 ʔitugajo:igwē: (おはじき)
 jidzu (絵)
 jidzu kakjun (絵をかく)
 jempitsu (鉛筆)
 hakkinnja: (かくれんぼ)
 ʃaʃi:ku: (かけっこ)
 haʃiba:bu: (風車)
 kattaibē: (かるた)

ʔumaʔaʃiraʃiku: (馬の競争)

getta:ru: (片足とび)

getta:ru: sui (片足とびをする)

ga:gannjo: (肩車)

※「軽業」は無回答。

kʔudʒi (くじ)

kʔudʒi ʃikjun (くじをひく)

ʃibuki (口笛)

ratu (指笛)

ke:ku (稽古)

ʃu:ru: (こま)

ʃu:ru: ma:ʃi (こまを回す)

ʃu:ru: ma:ʃiku: ʃiro: (こま回し競争しよう)

sanʃin (三味線)

sanʃin ʃikjui (三味線をひく)

kʔudʒi: (潮干狩)

kʔudʒi: ʃi kuro: (潮干狩して来よう)

ʃibaja: (芝居する人)

dʒaŋken (じゃんけん)

ʔo: ni: (水泳)

sudzujufi (硯石)

nundiŋga: (すべり台のようにになっている草原)

ʃimi (墨)

ʃima (相撲)

ʃima turo: (相撲をとろう)

te:ko: (太鼓) 大小に関わらない。

ʃaŋgiʃi (竹馬)

taku (凧)

taku tubaʃun (凧をとばす)

tsʔuna ʃike: (綱引き)

tigami (手紙)

nawa tobi (縄跳び)

tsʔunatubi: ともいう。

nin (木の先を尖らして、柔らかい土に立てて、相手のものを倒し合って遊ぶ)

ninnjo: (人形)

tidaməbui (ひなたぼっこ)

ʃudi (筆)

ʃatati (筆を入れる道具)

bura: (風船玉) 昔は「はまゆう」の芯から作った。

薄いものは ʔikibura, 厚いものは ʔatsu-bura という。

timuka:ja: (ままごと)

timuka:ja: ʃiro: (ままごとをしよう)

ʔasubido:gu (おもちゃ)

getta (ゴム毬)

ma:ru: (蘇鉄の綿状のもので作った毬)

getta naŋije: (毬投げ)

mīdzu gando: (水いたずら)

katta (めんこ)

kattaibə: (めんこをやり合うこと)

karuta (かるた)

kakī (ゆびきり)

kakī ʃiro: (ゆびきりしよう。約束しよう)

語彙その 2. 動詞語彙

(1) 動静の語彙

○ゆれうごき

うごく

mīmanju ga puttʃa: sun (眉がぴくぴくうごく)

kʔumu ga dʒiwadʒiwa ʔiŋkjun (雲がうごく)

kʔuruma ga ʔiŋkjun (車がうごく)

dzurudzuru tu: jun (ぞろぞろ通る)

karada ʔiŋkatʃi (体をうごかす)

ʔifi nen hatamati (石のように固まって)

ʔadʒima: ʔiŋkatʃi (顎をうごかす)

kʔutʃi ʔiŋkatʃi (口をうごかす)

du: jamaʃi (体を悪くする)

kandzumufi ga ʔunja ʔunja wun do:
(蛆虫がうようよいるよ) kandzumufi
は「便所虫」ということ。

ゆれる

puni nu ʔiŋkjun (舟がゆれる)

kʔuruma ga ʔiŋkja: sun (車がゆれている)

densen ga ʔiŋkja: sun (電線がゆれている)

ʔinnja: ni: ga ʔiŋkjui (ぶらんこがゆれる)

ja: ga gura gura ʔiŋkjui (家がぐらぐらうごく)

ʔinimpu: ga ʔo: dʒui (稲の穂がゆれる)
「扇ぐ」という表現。jurijui ともいう。

ゆする ゆすぶる

tsʔubuʃi ʔiŋkatʃi (膝をうごかす)

ʔinnja: ni: ruŋi jo: (ぶらんこをこげよ)

xi: ʔiŋkatʃi (木をゆすぶる)

ふる

ti: rujun (手をふる) FともPともいう。

kʔubi pujun (首をふる)

pata pujun (旗をふる)

ふるえる

pi: sati puttʃa: sun (寒くて体がふるえる)

gata gata sun (ガタガタする)ともいう。

jumitaga puttʃa: sun (声がふるえる)

ぶれる

ʔun ʃaʃino: kʔumutui (その写真はくもっている)

tiribi ga dʒa: dʒa: miraran (テレビがぶれて見られない)

ゆらぐ

juŋi ga tatʃun (湯気がゆらぐ)

sudai ga hadʒi dʒi ʔiŋkjun (すだれが風でゆらぐ)

haŋi ga ʔutsujui (かげろうがゆらぐ)
「かげろう」を hanī という。

そよぐ

hadʒi ga sojosojo tu: jun (風がそよぐ)

うねる

nami ga tattfun (波がうねる)

su: ga ta un (潮がうねる) とも
いう。

くねる

karada wubuti wudujun (体をくねって
踊る)

datifi wudujun (かつこうをつけて踊る)

datifiri jigga (男の身振りをする事)

はずむ

getta ga ?ukabjun (毬がはずむ)

nī:rītun kui (ねれている声)

ki:ki: gui (つまったような高い声)

はねる

?usagi ga tunnja: pani: suiya: (兎が
はねる)

getta: ga tuttui (バッタがはねる)

duruttani najun (どろだらけになる)

〇まえすすみ あとずさり

すすむ

mē: kai ?ikī jo: (前にすすむよ)

puni ga nudi ?ikjun (舟がすすむ)

wuī wuī kai nubuti ?ikjun (上にすすむ)

あとずさり

?atusudīfja: fi (あとずさりして)

あらわれる

?igga: ga miratti (犬が現われる)

ts?ura ni wakajun do: (顔にあらわれる)

ばれる

maje: ?iriba wakajun do: (うそがばれ
る) 嘘のことは wusu ともいう。

ひっこむ

janna: ni pikkudi (家の中にひっこむ)

netsu ga pikkudi ja: (熱がひっこむ)

ti: Fikkumatfi (手をひっこめる)

tidzimiti (ひっこめる。ちぢめる)

かくれる

ts?uki ga k?umu ni hakkītui ja: (月が
雲にかくれる)

warabigkja: nu xīssa: ni kakkīti (子
供が木の蔭にかくれる)

hakkīnja: (かくれんぼ) 「鬼」は k?a-

mja: 「かくれる者」は hakkīja: という。

ひそむ

nufitu: ga hakkītun (どろぼうがひそん
でいる)

bjo:ki ga pukudui ja: (病気がひそんで
いる)

〇いきき

いく

gakko: kai ?idzi kura (学校へ行ってこ
よう)

gaggi kai puni ?idzati kura (港で舟送
りして来よう)

むかう

gaggi kai ?iko: (港へ行こう)

さる

ʃima ʔannagiti (故郷をさる)

dani ʔikariba kumajun do: (あなたにさ
られては困る)

tu:sa kai ʔidʒan do: (遠くへさって行っ
たよ)

島から本土へ黙って出たり, 家出したりする
ことを pinnijun という。

それる

te:fu: ɣa nigitan (台風がそれた)

jumi ɣa pinnjatan do: (矢がそれた)

はなれる

ja: ʔidʒiti (家をはなれる)

su: kara ʔidʒiti (巣からはなれた)

ʔujakkwa ɣa wa:ri wa:ri ʃi kʔuraʔu
so: (親子がはなればなれに暮す)

Funi ɣa gaggi panariti (舟が港を離れる)
jumi ba ʔijun (矢を射る)

とおのく

ʔʔujakkwa nu miʔi ɣa tu:ku najun (親
戚の縁が遠のく)

ʔun ʃigutu kara tu:nukamba ʔikan (こ
の仕事から遠のかないといけない)

どく

ʔuma sukkī jo: (そこをどいてくれ)

ʔisu no:so: ja (椅子をなおす)

へだたる

ʔan tʔai ja ʔammasan jo:su ja: (あ
の二人は気が合わない様子だ)

ʔammasai (気が合わない。疲れる)

tarutu dimu ju: tsuki ʔatui ja:

(誰とでもよくつき合っているね)

くる

tsʔu ɣa kju: so: ja: (人がくるね)

ʔini ʔui dʒiki ɣa kju: so: ja: (田植の
時期がくる)

wuni nu tui ʔiri (さとうきびの取り入れ)

つく

Funi ɣa gaggi ni tsʔuʔi ja: (舟が港に
つく)

teɣami ɣa ʔʔan do: (手紙がついたよ)
ja: ni nja: tsʔuʔa (家にもうついた)

つきさす

naifu ba tsʔukissasun (ナイフをつきさ
す)

おさえつける

nu: mu ʔimimu ne:ram mun ʔusukkijun
(何の意味もないのにおさえつける)

くつつく

mutʔi: ɣa mutʔamutʔa tsʔukjun (餅が
手にくつつく)

kʔuɣkʔwa: ʔujani bē: kʔati (この子
は親にばかりくつついて)

tsʔuʔi (ついて) pittsutʔi (ひっつ
いて)

ちかづく

Funi ɣa ʔʔikkati ʔʔija: (舟が近づいて
きて)

so: ɣaʔiɣa ʔʔikkatan do: (正月が近づい

たよ)

よる

ʔaddani: ni juri jo: (道端に寄れよ)

ʔaddani: は「道の片側」「畦道の根っこの方」をいう。

miʃijani wuso: (店に居る) miʃija

ʔidʒi kura (店に行つて来よう)

特に「寄る」とは表現しない。

muʃi ɣa ʔa:ɣai miʃkiti juʃun (夏の虫があかりを見つけてよる)

miʃibuʃi ba ʃʔidʒimijun (眉をよせる)

tsʔun suba: kai jutitʃʔi (人の側によって)

おしよせる

ʔusu ɣa juti kjui (潮がおしよせる)

buri nindʒu ɣa ʔi:kudi kʃun (大勢の人がおしよせてくる)

gabaʃʃintʃʔu ɣa juti kjui (多くの人がよってくる)

せまる

pʔinitʃi ɣa ʔitʃasa (日にちがせまる)

ʔudana: hendʒi ʃiri (早く返事せよ)

いらっしゃる

ʔisasama ɣa muko: kara ʔumo:ʃui (お医者様がむこうからいらっしゃる)

ʔisasama ɣa ʔumakai ʔumoʃui (医者様がここにいらっしゃる)

njama ʔumani ʔumo:ʃun do: (今ここにいらっしゃるよ)

うかがう

na:ʃan ja:kai ʔutumu sendo: (あんたの家につれていきますから)

jo:su miramba ʔikan ja: (様子をうかがわないといけないね)

おしかける

buri nindʒu ɣa ʔi:kudi kjui (野次馬がおしかけて来る)

bjo:iɣkai ʔisugati ʔikʃui (病院にかけつける)

もどる

mutummitʃi muduti kjui (もとの道をもどる)

ja: kai muduʃui (家にもどる)

ʔujan ja: kai mudutan do: (親の家にもどったよ)

かえる

ja: kai muduro: (家にかえろう)

ʃima kai muduʃui (島にもどる)

ひきかえす

ʃu:tu dʒi muduti kjui (中途でもどつて来る)

jimmitʃi ba mai mudui ʃi kjui (同じ道をひきかえしてくる)

ひきあげる

to:kjo: kai ʃikkutʃi ʔikʃui (東京にひきあげる)

to:kjo: pittʃagiti kʃun (東京をひきあげてくる)

jamatu kai ʃiki ʔagijui (内地へひきあげる)

まわす

hafiba:bu: ma:sun (風車をまわす)
 mi: makkuru: nati ja: (目がまわってね)
 pirumato: pafitui (運動場をまわっている)
 d3into: ma:i (全島まわり)
 sima kimbutsu (島観光)

かよう

?isan ja: ?id3i kura (病院にかよう)
 gakkō: ?akki (学校にかよう)

ちる

ʔʔunʔa: ɣa sampata nati ?ikjui (人達がばらばらにちっていく)
 pana ɣa kʔantijui (花がちる) ?utijui
 ともいう。
 ki ɣa barabara najui (気がちる)
 sumi ɣa fuburijui (墨がちる)
 jami ba tumijui (痛みをちらす)

あつまる

?umatsu nubbjui (火のまわりにあつまる)
 「火をあたたまる」という表現。 nukubjui
 ともいう。

さまよう

jama d3i paguritui (山ではぐれる)
 dama: ?akki: sui (迷って歩く)

うろつく

tunnu ja: nu mē: maja maja sui (鳥
 小屋の前をうろうろする)

ぶらぶらする

matʃi ba bura bura ?atʃui (街をぶらぶ
 ら歩く)

ただよう

funi ɣa nagasattui (舟がただよう)
 pana nu nioi ɣa habasai (花の香りがた
 だよう)

○のぼりおり

のぼる

jamakai nubujui (山にのぼる)
 pjakunode: kai nuburo: (百之台にのぼ
 ろう)「百之台」は喜界島の中ほどにある高
 台。
 ximpana kai nubujui (木にのぼる)
 jampira: kai nubujui (屋根にのぼる)
 pira kai nubuti ?iko: (坂にのぼっていこ
 う)

のる

?uma kai nuro: (馬にのろう)
 「乗る」は nujui, nujun という。
 ?uma ni nuro: ともいう。
 kʔuruma ni nuro: (車にのろう)
 puni ni nujui (舟にのる)
 kʔumitʃi ni nujui (踏台にのる)

あがる

nikai kai nuburo: (2階にのぼろう)
 janna: kai nuburo: (座敷にのぼろう)
 ?uka kai nuburo: (陸にのぼろう)
 kundo kara ʃiggakurei d3a ja: (今度か
 ら小学校1年生だね)
 ko:ko: nja: ?uwaid3a ja: (高校はもう

卒業だね)

nja: siɣutu ɣa sudi (もう仕事が済んだ)

nidan ɣa ʔaɣajui (値段があがる)

netɕu ɣa ʔaɣatui (熱があがる)

ʔumatsumpana: ɣa ʔaɣatui (火の手があ
がる)

xibuɕi ɣa tʔattɕun (煙がたっている)
taɕui (立つ) taɕui (立っている)

やむ

ʔami ɣa jadi (雨がやむ)

wata nu jami ɣa turiti (腹の痛みがや
んだ)

やめる

nja: juɣkuri: nati siɣutu jamiro:
(もう日が暮れて仕事をやめよう)

かかげる

pata tatijun (旗をかかげる)

うく

funi ɣa ʔukadui (舟がうく)

kʔumu ɣa ʔutɕui (雲がういている)

○たちい

ある

hani ɣa ʔai (お金がある)

hani mutɕi (大金持ち)

tʔu: ja juwə: ɣa ʔan do: (今日はお祝
があるよ)

いる

ba ɣa wundo: (お母さんがいるよ)

ʔigga: ɣa wui (犬がいる)

たつ

tʔu ɣa tattɕui (人がたっている)

xibuɕi ɣa tattɕui (煙がたっている)

ʔutu tatijui (音をたてる)

furu: taki (風呂をたけ)

ja: tatijui (家をたてる)

すわる

tatami nu wui ni ji: jui (畳の上にすわ
る)

かがむ

fufi magiti (腰をかがめる)

つまさきだち

pja: te: ta: ʃi ʔakkjui (爪先立ちして歩
く)

ひきたつ

kʔinunu ʔiru ɣa pikitatiti kʔorasa

ja: (着物の色がひきたって美しいね)

ひきたてる

dʒunsa ɣa nufitu: kʔamjun (巡査が盗人
をひきたてる)

すべる

nugɣijui (すべる) nundigga: (草原
のすべるところ。木の葉などを尻に敷いてす
べる)

sundijun (すべる) ともいう。

はう

po:ja:tʃui (はっている) pはFともいう。

mattaba: ɣa fo:juɪ (蛇がはう)

あるく

ʔu:mata dʒi ʔattʃui (大股であるいている)

ʔakkjuɪ (歩く)

いそぐ

gakko:kai ʔisupati ʔikjun (学校へ急い

で行く)

ʔudana: ʔuiri jo: (急いで起きろ)

pako: ʔuirantu gakko:kai ʔukurin do:

(早く起きないと学校におくれるよ)

はしる

ʔundo:kwai ni pafi:ku: ʃiro: (運動

会で競走しよう)

かける

ʔuma ɣa wuduppani sui (馬がかかる)

pafi:ku: (かけっこ)

とぶ

tui ɣa tudui (鳥がとんでいる)

su: ɣa najui (潮がとぶ)

sufi: ɣa nubujui (潮がとぶ)「陸にの
ぼる」という表現。

およぐ

ʔiju ɣa ʔo:dʒui (魚が泳ぐ)

ころがる

ma:ru: ɣa ma:tui (玉がころがる)

ʔiɣɣapkwa: ɣa fe:ja: ma:ja: ʔattui

(仔犬がごろごろと遊んでいる)

ころぶ

gubu gubu mitʃi dʒi to:rijui (でこぼこ
道でころぶ)

たおれる

xi: ɣa to:riti (木がたおれた)

tsʔukkurijui (折れる)

つまづく

ʔifi fikkē:ti to:riti (石につまづいて
たおれた)

ひっくりかえる

bo:tu ɣa mappē:ti (ボートがひっくりか
える)

mappē:juɪ (ひっくりかえる)

くじく

ʔintʃo: na pja ne:ratʃi (ちょっと足を
くじいた)

よろける

ʔifi ni ʔatati jura jura ʃi (石につま
ずいてよろける)

よろめく

se: nudi fura fura sun (酒を飲んでよろ
めく)

こもる

xibuʃi ɣa kʔumuti (煙がこもる)

ja: ni tudʒi kʔumuti (家にとじこもる)

うまる

ʔomotʃa ɣa duru ni ʔummatti (おもちゃ

が泥にうまる)
 pirumato: ni niŋŋin ɣa ʔippai nati
 (広場に人間がいっぱいになって)

とまる
 tʃʔuntʃa: ɣa taʃibandu: sui (人達がたちどまる)
 naɣari ɣa tumati ja: (流れがとまったね)
 naɣari ba ʔumitumijun (流れをせきとめる)
 basu ɣa tumati (バスがとまる)
 gata gata ɣa tumati (ふるえがとまる)
 suido: nu tumati (水道がとまった)

ながれる
 miɖʒu: ɣa naɣarijui (川がながれる)
 xi: ɣa naɣarijui (木が流れる)
 mē:ʈʃi: kara ʔaʃiɣa naɣariti (額から汗が流れた)

そそぐ
 miɖʒu: nu miɖʒu ɣa ʔumi kai naɣarijui
 (川の水が海に流れる)

もる
 jaŋkwan nu suku ɣa fuɣiti mujui (やかんの底が空いてもる)
 ɣana: fuɣiti mujui (穴があいてもる)
 tindʒo: kara ʔamĩ ɣa mujui (天井から雨がもる)

ふきでる
 suido: miɖʒu ɣa dʒa: dʒa: tubatʃui (水道の水がザーザーふきでている)
 tsʔubu ʔaʃi: ɣa ʔidʒiti (粒の汗がふきで

る)
 にじむ
 sumi ɣa tʃʔiriti (墨がにじむ)
 tʃʔi: ɣa ʔa: makki natui (血がにじんできた)
 しみる
 habi ni ʔiŋku ɣa ʔutʃitun (紙にインクがしみる)
 kʔusui ɣa su: tu: ti (薬がしみる)
 pija miɖʒu ɣa pa: ni ʃiri ʃiri sumijui
 (冷水が歯にジーンとしみる)

ぬれる
 ʔamĩ ni nurijui (水にぬれる)
 ひたる
 miɖʒu ni tʃʔuɣɣajui (水にひたる)
 ja: ni miɖʒu ɣa tʃʔuɣɣatui (家に水がある)

つかる
 nubi: madi ju: tʃʔuɣɣatui (首まで湯につかる)

さす
 ʔabura sasui (油をさす)
 kʔusui ʔirijui (眠薬をさす)

つぐ
 se: ba farafɿ (酒をつぐ)
 ʔotʃa farafɿ (お茶をつぐ)

こぼす

ɸa: fubusui (お茶をこぼす)
 sata: fubusui (砂糖をこぼす)
 ʔubani fubusuna jo: (ごはんをこぼすなよ)
 namida ɸa ʔidʒiti (涙が出て)
 ʔutusui (おとす) も用いる。
 ʔundʒai sui (ぐちをこぼす)

あふれる

mīdzu ɸa ʔabbijui (水があふれる)
 mīdʒu: nu mīdzu ɸa ʔabbijui (川の水
 があふれる)
 nada ʔututʃi (涙をおとした)

○でいり

はいる

janna: ʔkai ʔijui (家の中にはいる)
 kʔwai ni ʔijui (会にはいる)
 mī: ni mīntʃira: ʔiriti (目にごみがは
 いる。

いれる

fukku ni ʔirijui (袋にいれる)
 fuduko: ni ʔirijui (ふところにいれ
 る)
 ɸa: ʔirijui (お茶をいれる)
 ko: ʃi: ni satta: ʔirijui (コーヒーに砂
 糖をいれる)
 jakkwan ni mīdzu ʔirijui (やかんに水を
 いれる)
 pittuja: ni ʔumatsu ʔirijui (火鉢に火
 をいれる)
 suitʃi ʔirijui (スイッチをいれる)

でる

sutu kai ʔidʒijui (外にでる)
 ja: ʔidʒijui (家のでる)
 gakkō: ʔidʒijui (学校のでる)
 nikibi ɸa ʔidʒijui (にきびがでる)
 seki ɸa ʔidʒijui (咳がでる)
 tambikjui ともいう。

nitsu ɸa ʔidʒijui (熱がでる)
 nada ɸa ʔidʒijui (涙がでる)
 mīdzu ɸa ʔidʒijui (水がでる)
 tsʔuki ɸa ʔidʒijui (月がでる)

だす

hani ʔidʒasui (金をだす)
 suba ʔidʒasui (舌をだす)
 janaɸui kara kʔinu ʔidʒasui (柳行李か
 ら着物をだす)
 tigami ʔidʒasui (手紙をだす)

さしだす

ʔubun ʔidʒasui (お盆をだす)
 ti: ʔidʒasun (手をだす)

○つれだち

つれていく

ho:imun ni tsʔuriti ʔikjui (買物につれ
 ていく)
 ʔigga: ba tsʔuriti ʔikjui (犬を運動につ
 れていく)
 sense: ɸa seitu tsʔuriti ʔikjui (先生
 が生徒をつれていく)

やる

tsʔuke: ni ja: sun (おつかいにやる)
 kodzuke: kʔa: sun (こづかいをやる)

jidu ja:sun (餌をやる)

よこす

hendʒi ja:sun (返事をよこす)

ma:ru: naʒiti ja:sun (毬を投げてやる)

おくる

kodzutsumi ʔukujun (小包をおくる)

ʧʔu ba ʔukujui (人を送る)

とどける

mijaʒi mun tudukijun (おみやげをとどける)

〇もちほこび

おぶう

warabi happijui (子供をおぶう)

おう

nimutsu happijui (荷物をおう)

hatamijui (肩にかつぐ)

ʃikinini mutʃui (責任をおう)

せおう

nimutsu happijun (荷物をせおう)

かつぐ

fumānda:ra hatamijui (米俵をかつぐ)

hatami ʔo:da: dʒi hatamijun (もっこでかつぐ)

ʔo:ko: dʒi hatamijui (天秤棒でかつぐ)

ʧʔu ba hatamijui (人をかつぐ) 「人をだます」意にはならない。

になう

ʃinamun happijui (品物をになう)

もつ

ni: mutʃui (荷物をもつ)

hani mutʃui (お金をもつ)

wutu mutʃi (夫をもつ)

tudʒi mutʃi (妻をもつ)

ja: mutʃi (家をもつ) 女性が結婚することであらわす。

さげる

kaban sagiti (かばんをさげる)

ʧo:ʧin mutʃi (提灯をもつ) sagijun (さげる) ともいう。

fusi ni tiruʒi: sagiti (腰にてぬぐいをさげた) 「てぬぐい」は sadʒi ともいう。

はこぶ

miʃa fakudi (土をはこぶ)

「足をはこぶ」という表現はない。

のせる

hamatʃi ni munu hamijui (頭に物をのせる)。

nimutsu kʔuruma ni tsʔumjui (荷物を車につむ)

ʔuma ni ʔu:sui (馬にのせる)

馬・牛の背中にのせることも ʔu:sui という。

(2) 変容の語彙

わる

garasu wajui (ガラスをわる)

pidgi: wajui (薪をわる)

de: wajui (竹をわる)

bura: wajui (風船玉をわる)

fuŋa: wajun (卵をわる)

tʃʌdʒawan tʃʌkkati (湯呑をわる) tʃʌ-
ukkwajun sē: ni mīdzu ʔubē:jun (酒
に水をうめる)

く だ く

ʔifi wajui (石をく だ く)

ko:ri kʌdakjui (氷をく だ く)

mitʃa fuma:sa kʌddasui (土を細くく だ く)

つ ぶ す

ʔa:nigkʌnta: tʃʌbutsui (苺をつぶす)

mufi fitʃui (虫をつぶす)

tsʌmī dʒi nikibi tutʃui (爪でにきびを
とる)

jama ʒa kudditi ja:to:ʃi (山がくずれ
て家を倒した)

こ わ す

ja: ʒa to:rirumai (家が倒れかかっ
てい る)

kuruma ʒa jabbijui (車がこわれる)

panabatʃi tʃʌkkwajui (花瓶をこわす)

paku tʃʌkkwajun (箱をこわす)

karada jabbjun do: (体をこわすよ)

wata kʌjasun (おなかをこわす)

く ず す

pira ʒa kʌddijun (土砂がくずれる)

jama ʒa kʌddijun (山がくずれる)

gana: ʒa kʌddita (穴がくずれた)

xī: ʒa kʌddita (木がくずれた)

tiŋki ʒa jabbiti (天気がくずれる)

や ぶ る

so:dʒi jabbiti (障子がやぶれる)

fukku ʒa jabbijui (袋がやぶれる)

kʌinu ʒa:sa:sun (着物をやぶる)

fuduki jabuti (縫目をやぶった)

kakui jabui (囲いをやぶる)

ro: jattui (牢をやぶった)

tuŋʒaʒka: ʒa hasu: tʃʌʃitʃui (ひよこ
が殻をつついて出てきた)

さ く

kaminari ʒa ʔutiti xī:to:ʃi (雷が落
ちて木がさけた)

ta: ʒa warijui (田が干上がってさけた)

ʔika sakjui (するめをさく)

ʔunagi piratʃui (鰻をさく)

か く

tʃʌdʒawan ʒa kakita (湯呑がかけた)

sabakimpa: ʒa kakita (櫛の歯がかけた)

kamisui nu pa: ʒa kakita (剃刀の刃が
こぼれた)

pufi pījun (節をけずる)

お る

hari juda wui (枯枝をおる)

gī:dʒi: wui (薪になる細い枝をおる)

pai ʒa wurita (針がおれた)

hasa tabbjui (傘をたたむ)

habi magijui (紙をまげる)

わける

muttʃi: tʔai ni wë:jui (お菓子を二人に
わける)
pambun na: wë:jui (半分ずつ山分けにす
る)
ʔatama kadzu ni wë:jui (人数にわける)

きる

tamana ʔina:sa na: kʔijui (きゃべつ
を細かくきる)
de:kuni: ʔurusui (大根をきざむ)
ʔiju ʔa kʔu: tam mun dʒa ʔa ʔitu kʔitʃi
ni: ta (魚が釣れたのだが、糸をきってに
げた)
ʔiju ʔa ʔami jabuti ni ʔita (魚が網を
やぶってにげた)
pasami dʒi wu: kʔijun (鉄で紐をきる)
pa: dʒi ʔitʃu: kʔijun (歯で糸をきる)
gumu nubatʃam mun dʒa ʔa kʔirita (ゴ
ムをのばしたのだが、きれてしまった)
tin tsumi kʔijui (爪をきる)
hassa ʔi: ʔitʃaku nafi jo: (髪の毛を
短くさせよ)
jase: ba soŋkwa: ni ʔiriti ha: rakafi
jo: (野菜をざるに入れて乾かせよ)
munsudi ʔikifirara (水にもぐって息が
きれる)
「もぐる」ことは munsumjun または dʒidʒ-
u: sumjun という。
nubui kʔijun (首をきる)
pusutʃu kʔubba: (臍をくびる)

たつ

kʔinu tasui (着物をたつ)

ちぎる

pana mudgittʃa: tʃi (花をちぎる)
pi:sa mimintai ʔa kʔirijun nessui (寒くて耳がちぎれそうだ)
sudi mudgikkarin (袖をちぎられる)
paunnju rimu: mudgikkarin do: (羽織
の紐をちぎられるよ)

きざむ

de:kuni: ʃiggiri tsʔuki:sun do: (大
根の千切を作るよ)
tabaku kʔidzadun do: (たばこをきざむよ)

けずる

jempitsu tudʒun do: (鉛筆をけずる)
çi: fusadʒun do: (木をけずる)
paja ba hanna kë:tui (柱を鉋でけずる)
puʃi pi: (鯉節をけずる)

かる

hamatʃi kʔijun (髪をかる)
ssa hai (草をかる) hajun do: (かる
よ)
ʔini hai (稲をかる)
ʔueki hajun do: (植木をかるよ)
sasanda: hai (芝生をかる)

そる

pini sui (髯をそる)
mimajunsa: sujui (眉の下をそる)

むしる

pate:nu ssa hari jo: (畑の草をかる)
hassani: mussa: tʃi (髪をむしる)
tunnju pani mussa: jun (鳥の羽をむしる)

つむ もぐ

hasampa: mussa:tsun do: (木の葉をつむ)
 pana tsʔumittsa: (花をつむ)
 mamī mujun do: (豆をもぐよ)

ひく

maruta: ba nukubiki sun do: (丸太を
 鋸でひく)
 nuku dʒi xī:to:tʃi (鋸で木をたおした)

おろす

ʔiju pira ʔu:tʃun do: (魚を3枚におろす)
 ʔiju nu binta tsukkwajun do: (魚の頭
 をおろす)
 de:kuni ʔurufi: (大根をおろす)
 wasabi ʔurutʃi (わさびをおろす)
 ringo sutun (リンゴをすっている)
 so:ʒa: sutui (しょうがをする)
 guma sutui (ごまをする)

はねる

kʔubi kʔi: (首をはねる) 「切る」という
 表現。
 jo: ne: nu ʃibaje:ja sudi (夜の芝居は
 すんだ) 「はねた」とは言えない。

そぐ

hassaʒi: ʔusumitui (髪をそぐ)
 gumbo: ʔurutsui (ごぼうをそぐ)

とぐ

po: tʃu: tuʒi (庖丁をとぐ)
 puru munu: tugun (古物をとぐ)
 nabi tugikata (鍋をとぐ)
 pa: tuʒi (歯をみがけ)

tuge: ʃira: (みがきなさい)

みがく

kʔutsu migatʃui (靴をみがく)

ぬく

ʃiraʒi nuni (白髪をぬく)
 kʔuni nuʒi kata (釘をぬく)
 wuīn suku: ʒa kʔantita (桶の底がぬける)
 tindʒo: ʒa ʔutita (天井がぬけた)

むく

kʔunifa:n kawa: mukikata (みかんの皮
 をむく)
 pansun kawa: mukikata (さつまいもの
 皮をむく)
 ringo mukjun (リンゴをむく)
 mamīn kawa: mukjun (豆のさやをむく)
 sugin kawa: mukikata (杉の皮をむく)
 ʔijun kawa: pagikata (魚の皮をむく)
 ʔikki muʒi (鱗をむく)
 kaja: nu hasu: wa:ʃikata (貝の殻をむく)
 tidani makiti ha: mukiti (日にやけて
 皮がむける)
 to:riti tsʔubufi padʒi (倒れて膝をす
 りむいた)
 ʔigʒa: ʒa pa: ʔidʒatʃi (犬が歯をむき
 だす)

はぐ

te: ru: dʒi ja: pagatti (台風で屋根
 がはがれた)
 kasanru: mudʒi (かさぶたをはがした)
 tintsʔumī fanatʃi (爪をはがした)
 pegki ʒa pagija: tʃi (ペンキがはげた)

?udu paɣasa:tʃi (ふとんをはがす)

まがる

pai ɣa magati (針がまがる)

kʔuni ɣa magati (釘がまがる)

tsʔubufi magiti (膝をまげる)

ためる

de: ba magiti (竹をためる)

たわむ

juda ɣa saɣatun (枝がたわむ)

しなう

de: ɣa jutta:tui (竹がしなう) ju-
tta:jun do: (しなうよ)

ねじれる

paɣani ɣa magaja:tʃi (針金がねじれる)

ひねる

nubui muditi (首をひねる)

gute: muditi (腕をひねる)

dʒagutʃi ba muditi (蛇口をひねる)

つねる

pja tsʔumittʃi (足をつねる) tsʔumi-
jun do: (つねるよ) tsʔumikkarimī
(つねられるか)

かたむく

hami ɣa jutta:tui (壺がかたむく)

へこむ

mī:ɣa pikkudi (目がへこむ)

wata ɣa pikkudi (腹がへこむ)

くぼむ

mitʃi ɣa pikkumja:tʃi (道がくぼむ)

ほる

ha: fui (井戸をほる)

midʒu: fui (溝をほる)

pansu: ʔutʃi (さつまいもをほる)

ta: ʃiko:i (田を整える) tsʔukki (作
る)

?iɣkan fui (印をほる)

gute:ni ʔiridzumi sui (腕にいれずみを
ほる)

かれる

ximpa: ɣa hariti (草木がかれる)

しおれる

pana ɣa ʃiguriti (花がしおれる)

ʃigurijun (しおれる)

jase: ɣa su:ɣari: (野菜がしおれる)

su:ɣarijun do: (しおれるよ)

しぼむ

pana ɣa ʃiguriti (花がしぼむ)

ʃigurijun (しぼむ)

つぼむ

kasa ba tʔidʒimīti (傘をつぼめる)

tʔidʒimījui (つぼめる)

しなびる

pansu: ɣa su:ɣarijun (さつまいもがし
なびる)

やせる

karadanu je:ti (体がやせる)

かじかむ

ti: ga sukudi (手がかじかむ)

のばす

gumu nubasui (ゴムをのばす)

ふくれる

muttji: ga rukkiujui (餅がふくらむ)
bura: fukkatja (風船をふくらませた)
k?ukummi ga firatji (つぼみがふくらむ)
wata rukka: ji (腹がふくらむ)

はれる

ts?ura rukka: ji (顔がはれる)
tippja rukkiti (手足がはれる)
nibutu: ga ?idgiti (おできがはれる)
mi: ga rukkiti (目がはれる)
mi:butu: nati ともいう。
diki mun (はれもの)
?o: sudgi: (みみずばれ)

ふとる

kunu guro: kwë:kkwa ji (この頃はふと
りすぎる)
xi: ga rudikkwafi (植木がふとる)

はる

wata ga paitsumati (腹がはる)
tento pajui (テントをはる)
fafin pajui (写真をはる)
ko:jaku ?utjukkiti (こうやくをはる)

むくむ

pja ga pukkiti (足がむくむ)
ts?ura rukka: ji (顔がむくむ)

ふやける

pja ga fidga juttjatji (足がふやける)

こえる

mitja ga k?wë:ti (土がこえる)

むくれる

warabintja: ga habui ji (子供たちがむ
くれている)

うむ

?umi muttji (膿がうむ)
kuni fa: ga ?udui (みかんがうんでいる)

はらむ

jumi nu paramjui (嫁がはらんでいる)
parami ?iju: (子もちの魚)
parami (魚のはらみ)
?ufi nu ni: muttjui (牛がはらむ)
「荷をもつ」という表現。

つかれる

kju: ja dariti (今日はつかれた)

(3) 着用の語彙

きる

jukata k?itji (ゆかたをきる)
k?inu k?ijui (着物をきる)
jurui k?ijui (鎧をきる)

はく

pakama kʔitʃi (袴をはく)
 tabi kʔumjuɪ (足袋をはく)
 ʔassa kʔudi (下駄をはく)

かける

ʃito:bi kʔwə:ti (ふんどしをかける)
 mɪʔuta kwə:ti (眼鏡をかける)
 denwa kē:ti (電話をかける)

はめる

ti:bukku: suɟi:ti (手袋をはめる)
 suɟijui (はめる, すげる)
 ʔudeduki: pamijui (腕時計をはめる)
 jubuwa suɟijui (指輪をはめる)

かぶる

bo:ʃi habbjui (帽子をかぶる)
 hasa sasui (傘をさす)
 men hatti (お面をかぶる) habbjui (かぶる)
 ha:nu mɪdzu ha:ti (井戸の水をかぶる)

しめる

kʔitsubi ʃimɪti (帯をしめる) ʃimɪ-
 jui (しめる)
 ʔatʃimaki ʃimɪti (はちまきをしめる)
 mawafɪ ʃimɪti (まわしをしめる)
 ʃito:bi ʃimɪti (ふんどしをしめる)

つける

botan tsʔukijui (ボタンをつける)
 gi:ʔa: saʃi (かんざしをさす)
 tu: ni kagi ʃimɪti (戸に鍵をつける)
 nɪʔuda kʔiti (荷札をつける)

hamatʃi ni ʔabba kʔiti (頭に油をつける)
 kʔidzu ni kʔusui kʔijui (傷口に薬をつ
 ける)

ʔofiroi kʔiti (おしろいをつける)
 kʔutʃibeni nutʃei (口紅をつけてある)
 ʔigga: ni kʔusari kʔitei (犬に鎖をつ
 けてある)

pen ni ʔigku kʔiti (ペンにインクをつけ
 る)

jo: fuku ni pegki dʒi jugutʃei (服に
 ペンキで汚してある)

さす

gɪʔa: sasui (かんざしをさす)
 passafɪ: ni pai sasui (針さしに針をさ
 す)
 guʃi ni nukjuɪ (串ざしにする)
 bara nu ni:ni: ɟa sasui (ばらのとげ
 がささった)

しく

mussu ʃikjuɪ (むしろをしく)
 dzabuton ʃikjuɪ (ざぶとんをしく)
 ʔudu ʃikjuɪ (ふとんをしく)
 suna ʃikjuɪ (砂をしく)
 ʔiʃiɟkwa: (砂利)

くるむ

ʔakatʃan tʃʔundi daki (赤ちゃんを毛布な
 どでくるんで抱く)
 ʔaɟko tʃʔummjuɪ (あんこをくるむ)

まとう

mi:mun kʔitʃui (新しいものをきる)
 ʔaʃi matʃubui ʃi (足手まといになる)

むすぶ

saban wu: musudi (草履の紐をむすぶ)
 kutsun wu: musubjui (靴紐をむすぶ)
 paoi nu pimui: musubjui (羽織の紐をむ
 すぶ)
 ?ubi ba taiko musubi sui (帯をおたい
 こにむすぶ)
 ti: ts?unadgi (手をむすぶ)
 jin musubjui (縁をむすぶ)
 ti: k?ubbjui (手足をしばる)

つなぐ

?itu musudgi (糸をつないでいる)
 ts?unadgi (つないでいる)
 funi ts?unadgi (舟をつないでいる)
 ti: ts?unagjui (手をつなぐ)
 ?igga: k?ubbjui (犬をつないでいる)
 ts?ugiki sui (つぎ木をする)

すげる

?assa: nu rana wu: fiko:ti (下駄の鼻
 緒をけずる)
 haman ji: sugitui (鎌の柄をすげている)

つかむ

bunin ?iju k?amjui (生の魚をつかむ)
 ba: ti: k?amjun (母の手をつかむ)

つかまえる

nufitu k?amjui (どろぼうをつかまえる)
 maja: ga midzugga: tujui (猫がねずみ
 をつかまえる)

ゆう

hamatji ju:i (髪をゆう) ju: jun (ゆ

う)

ゆわえる

nimutsu k?uttsui (荷物をゆわえる)
 tabajui (たばねる)ともいう。

たばねる

ssa tabajui (草をたばねる)
 tammu: tabajui (薪をたばねる)
 hassa?i: matumitui (髪をたばねる)

つつむ

muttji ts?ummjui (お菓子をつつむ)
 muttjiは「餅」のほか、甘い物一般をいう。
 飴玉などにもいう。
 ?utju kki: dgi ts?undi (ふろしきでつ
 つむ)
 tabbjun (たたむ)
 k?inu tabbi (着物をたたむ)
 hasa k?u: jui (傘をたたむ)

かたづける

?igutu hatadzukiri (仕事をかたづける)
 janna: hatadzukiri (家の中をかたづける)

しまう

do: gu no: sui (道具をしまう)

くるめる

?i: kumiti (言いくるめる) ?i: ku-
 mijun (言いくるめる)

(4) 火熱の語彙

もえる

?umatsu ɣa mē:tui (火がもえる)
 ?un xi:ja ju: mē:jui (この薪はよくも
 える)
 gumi jakjui (ごみをもやす)
 xīmpa: mē:sui (木の葉をもやす)
 kundu nu kʷadʒi dʒi ?ufuʒa: jatʃi si-
 matan (今度の火事でおもやをもしてしま
 った)

たく

sekitan mujatʃi kiʃa faʃirasun (石炭
 をたいて汽車をはしらせた)
 ?ubani takjun (ごはんをたく)
 furu: takjun (風呂をたく)

つける

tabaku ni ?umatsu kʷijun (たばこに火
 をつける)
 ro:soku kʷijun (ローソクをつける)

おこす

?umatsu ?ukusun (火をおこす)
 mēttu: (もえ残り)
 pidzumi: (すみ)
 ?uki: (すみび)
 juni (灰)
 ?aku (灰汁)

あぶる

?ika ?abbjun (するめをあぶる)
 nui ?abbjun (海苔をあぶる)
 ti: ?umatsu ni nubbjui (手を火にあた

る)

nuttui (火にあたっている)

やく

jama jaki (山をやく) jakjun (やく)
 ja: jakjui (家をやく) jatʃe:i (やい
 である)
 sumi jakjui (炭をやく)
 hamigkwa: jakjui (壺をやく)
 jatʃu: jakjui (炙をすえる)
 ?iju jakjui (魚をやく)
 muttʃi: jakjui (餅をやく)
 ʃifi jakjui (肉をやく)
 ruɣa: jakjui (卵をやく)
 pansu: jakjui (さつまいもをやく)
 nigiri: (おにぎり)
 jakkidu (やけど)

こげる

jakkugaratʃa (こがした)
 ?ubani tekkaratʃa (ごはんをこがした)
 nabīnsuku: tekkaratʃa (鍋の底をこがし
 した)
 ?uki: dʒi tatami kugaratʃi (すみびで畳
 をこがした)

くべる

takimun jari ?iriri (薪をどんどん入れ
 よ)

あげる

tsʷutʃi ?agī jakjun (てんぷらをあげる)
 「やく」と表現する。

いためる

tamana nu ?ikkja: ʃi: (きゃべつをいためる)

tamana ?ikkja: sui (きゃべつをいためる)

いる

mami ?ikkjun (豆をいる)

guma ?ikkja: tsui (ごまをいる)

わかす

ju: wa: sui (湯をわかす)

tʃa: wa: sui (お茶をわかす)

furu: takjui (風呂をわかす)

misufiru wa: sui (みそ汁をわかす)

ゆでる

fuga: judijun (卵をゆでる)

?ibija gani: wa: sui (海老や蟹をゆでる)

ゆがく

?ika: judijun (鳥賊をゆがく)

de: kuni judijun (大根をゆがく)

satu ?umu nijui (里芋をにる)

せんじる

k?usui ʃindʒijui (薬をせんじる)

たぎる

ju: ʒa futʃattui (湯がにえたぎる)

にる

?iju wa: sui (魚をにる)

mami nijui (豆をにる)

misufiru ʒa ʃidʒibusatti (みそ汁がにつ
まった) ʃidʒibusun (につまる)

むす

k?uda ?ubani: musui (赤飯をむす)

ふかす

mutʃigumi ?aŋijui (もちごめをふかす)

むれる

?ubani: ?undasui (ごはんをむらす)

kju: ja ʃittai ?atsusa: (今日はむれる
ようにあつい)

くすぶる

gumi ʒa rutsumitui (ごみがくすぶって
いる)

けむる

xi: ʒa muiranneni rutsumitui (薪がも
えずにけむっている)

あたる

?umatsu ni nubbjui (火にあたる)

?umatsu ni ?attatʃi kara kamjui (火を
通してからたべる)

あたためる

binto: nukumiri (弁当をあたためる)

(5) 飲食の語彙

たべる

munnje: suba kamjui (昼食はそばを食
べる)

くう

mun kamjui (飯をくう)

gadʒamja: ni kʰu: watti (蚊にくわれた)
 kʰu: jui (かう)
 se: numjui (酒をのむ)
 se: numja: (大酒飲み)
 ʔufi ɣa ssa kadui (牛が草をくっている)

のむ

mīdzu nudui (水をのんでいる) numjui
 (のむ)
 sui numjui (薬をのむ)
 tani nuɣkudan (種をのみこんだ)
 nuɣkumjui (のみこむ)
 tabaku rukjui (たばこをのむ)
 futʃui (のんでいる)
 ʔiju ɣa jidu kʰu: ti (魚が餌をのむ)
 nuɣkumjui (のみこむ)

かむ

gamu hamjui (ガムをかむ)
 hadui (かんでいる)
 jagi ɣa ssa niduhami sui (山羊が草を
 二度かみする)
 ju: ʔubani handzumitui (よくごはんを
 かんでいる) handzumijui (かむ)
 ʔiɣɣa: ni kʰu: watta (犬にかまれた)
 mamufi ni kʰu: watta (まむしにかまれた)

かじる

riɣɣo kʰittʃa: tʃi kadui (リンゴをかじっ
 ている)
 kʰittʃui (食い切る。かじる)

mīdzugɣa: ɣa pansu: kadʒadui (ねずみ
 がさつまいもをかじっている)
 kadʒajun (かじる)
 ʔuja nu suni kamja: (親のすねをかじる)

つつく

tui ɣa mun tʃʰufitʃa: tʃui (鳥が餌をつつ
 く)
 ʔuja: ɣa kʰwa ba tsuki panatʃui (親
 が子をつきはなす)

なめる

ʔami fibbjui (飴をなめる)
 maja: ɣa kʰwa maja namija: tʃui (猫が
 仔猫をなめまわす)
 satta: namitui (砂糖をなめている)

すう

tʃi: nudui (乳をすう) numjui (の
 む)
 ʔiki fitʃi (息をすう) futʃui (ふく)
 「はげしい息づかい」にいう。
 ʔiki sui (息をすう)

すする

kai: suttui (お粥をすする)
 pana suttui (鼻をすする)

ふくむ

mīdzu kʰummjui (水を口にふくむ)
 ʔamidama kʰummjui (飴玉をふくむ)

語彙その3. 形容詞語彙

naga:sa (長い)	naga:sai (長い)	k?urusai (黒い)
?itt?asa (短い)	?itt?asai (短い)	makk?uru sui (真黒している)
k?wasa (深い)	k?wasai (深い)	firusai (白い)
?asasa (浅い)	?asasai (浅い)	?a:sai (赤い)
ta:sa (高い)	ta:sai (高い)	?a: makk?i ja: (赤いね)
pi?tja:sa (低い)	pi?tja:sai (低い)	k?i:ru: ?iru: (黄色い) k?i:ru: (黄色)
tu:sa (遠い)	tu:sai (遠い)	?o:sai (青い)
mimi tu:sa (耳が遠い)		?o: ?iru: (青色)
mimi k?uddga: (耳が悪い人。つんぼ)		k?urasai (暗い)
t?ikasai (近い)		k?urasumi (闇)
?ubisai (庭や広場などが広い) 「大きい」意。		kujusai (濃い)
ja: nu ?ubisa (家が大きい)		?ususai (晚い)
?u:do: ja: (大きい家)		?ususa ja: (晚いね)
pirusai (海などが広い)		pē:sai (早い)
?ibasai (狭い)		pē:bē:tu ?umo:ri jo: (早くいらっしゃい)
?ubisai (大きい)		k?amma k?amma: ja rē:sa ja (毎朝毎朝は早いね) Fはpとも。
?inasai (小さい)		?ussai (多い)
?ubisai (太い)		mīdzu ŋa ?ussai (水が多い)
?u:do: xī: (太い木)		?ansana: (多い) 「あれほど」(量)をあらわす。
?inasai (細い)		?iju ŋa ?ansana: (魚が多い)
?ina xī: (小さい木) xīŋkwa: (小さい木)		?isa:sai (少ない)
fumasai (細い)		t?unu ?isa:sai (人が少ない)
fuma ?itfu: (細糸) fumamī: (細い目)		?ussakure: (これほど)分量を表わすが「少ない」の意になる。
?u:do: ?itfu: (太糸)		ts?usai (強い)
?arasai (粗い)		karada nu ts?usa ja (体が強いね)
?aramī: (粗い目)		juwasai (弱い)
?ubussai (重い)		wa:sai (若い)
?ubussa ja (重いね)		
gassai (軽い)		

kjorasai (美しい)	muntara: (惜しい)
?amasai (甘い)	dgikan ga muntaran (時間がおしい)
?amattarusai (甘ったるい)	hanasai (かわいい)
harasai (辛い)	hanasa sui (かわいがる)
masu harasai (塩辛い)	k?inu duki ja: (気の毒だ)
fj:sai (酸っぱい)	?atsusa ja (暑いね)
nja:sai (苦い)	?atsusai (熱い)
?umasai (うまい)	nukusai (暖かい) fu:fu: sui (湯が
kamara: (まずい) 「食えない」という表現。	あたたかい)
kujusai (お茶など濃い)	pi:sai (寒い)
pi:ssai (薄い)	pigurusai (冷たい)
rubasai (堅い)	pago:sai (きたない)
jaFarasai (柔らかい)	kajo:sai (かゆい)
juwasai (ひもじい)	jassai (たやすい)
wata fitji rajo: mukkamafi (腹がへ	f?igutu nu jassai (仕事がたやすい)
って早く飯をくれ)	mukkasai (難しい)
habasai (かぐわしい)	?isugasa (忙しい)
ssasa (臭い)	pusan (欲しい)
dunsasa ja: (特にくさい)	mumpusa ja: (物が欲しいね)
hadga da:sa (においがきつい)	pusan do: (欲しいよ)
mi:tt?arusai (まぶしい)	kampusan (食べたい)
mi: ?ammaasa (見にくい)	?ukasai (おかしい)
?ammasai (具合が悪い)	?ukasa ja: (おかしいね)
wassai (悪い)	k?imu?agisa (かわいそう)
jutasam mun (良い) jutasaiともいう。	
jamjun (痛い) 動詞	
?aka: (あゝ痛) 感嘆詞	

そ の 他

ʔoːjun (会う)	ʔoːjui (会う)	tsumai (非常に)
ʔakinjeː (商)		tsumai jutasai (非常によい)
ʔakirijui (飽きる)		ʔippjuː (一俵)
kʔurijun (与える)		ʔinaka (田舎)
nukusai (温い)		maridʒima (生まれ島)
ʔarasai (荒い)		kuni (本土のこと) 「国」という表現。
ʔaraui (洗う)		八丈島でも同様の表現をとる。
ʔai (有る)		nīgajui (願う)
ʔarutʃʔu (ある人)		ʔumoːjui (いらっしゃる)
ʔututʃaː (驚いた)		ʔumoːri (いらっしゃい)
ʔawa (泡)		pansun haraː (さつまいものかずら)
ʔawatijui (慌てる)		ʔijui (射る)
ʔikijui (生きる)		jumi dʒi ʔijui (弓で射る)
ʔikka (幾日)		ʔijui (入る)
ʔikka nati jo (幾日になったか)		jaː kai ʔijui (家に入る)
ʔitsumu (いつも)		paku ni ʔiriroː (箱に入れる)
ʔitsumu kjui jaː (いつも来るね)		juːweː (祝)
ʔidzai (漁り)		ʔukiː (浮標)
ʔidzai sui (漁りをする)		sadʒi (てぬぐい)
ʔittu (一斗)		sabun (石けん)
nitu (二斗) sandu (三斗) ʃitu		biduːru (ガラス)
(四斗) gutu (五斗) rukutu (		ʔukijui (受ける)
六斗) nanatu (七斗) hattu (八		toːmi (もみがらを飛ばす道具)
斗) kuntu (九斗) ʔitʃikoku (一石)		ʔudzu (渦)
ʔitoː (一等)		namaː mun (薄馬鹿)
nitoː (二等)		ʔutsui (打つ)
ʔippa (一羽) niha (二羽) samba		nasui (産む)
(三羽) ʃiha (四羽) goha		ʔummjui (埋める)
(五羽) roppa (六羽) nanaha		ʔujui (売る)
(七羽) hatʃiha (八羽) kjuːha		jakamasa (やがましい)
(九羽) dʒippa (十羽)		ʔun (運)
ʔippeː (一杯)		ʔun ʔa jutasai jaː (運が良いね)

jidzu (絵)

jidzu kakjui (絵を書く)

ji: (柄)

ji: kʔijui (柄をつける)

sare:jui (えぐる)

ʔinabjun (選ぶ)

dzin (縁)

murajun (もらう)

wikkijun (追う)

ʔukasai (おかしい)

ʔugamjun (拌む)

ʔuki (沖)

wui jun (起きる)

ʔukjun (置く)

ʔujasun (起こす)

tamagajun (恐れる)

ʔudʒijun (恐がって逃げる)

ʔusukijun (押す)

ʔadunasan (のろい)

ʔususai (遅い)

ʔutussan (おそろしい)

kʔantijun (落ちる) kʔantijui (落ちる)

mëŋŋa: (おとなしい人)

fun ʈo: mëŋŋa: dʒa ja (この人はおとなしい人だ)

wuɖui (踊る)

ʔudukkjun (驚く)

ʔuni (鬼)

ʔumutui (思う)

nunu ʔuja: (織り子)

ʔo: njun (泳ぐ)

ʔurijui (降りる)

wui (居る)

ʔujun (織る)

ʔuwajui (終わる)

wunai (をなり) 男きょうだいからみた女きょうだい。男きょうだいのエケリはない。

muʃiŋa: (蚕)

kʔanaajui (飼う)

ho:jun (買う)

mudujui (帰る)

he:jui (変える)

kakjun (掻く)

hamjun (嗅ぐ)

hammijui (隠す)

kaki (賭)

kaki sui (賭をする)

kë:jui (賭ける)

harasun (貸す)

kandʒo:jun (数える)

rubasan (固い)

katatʃi (形)

hatana (刀)

hobajui (固まる)

kjaja: (ひがめ)

habuʃi (鯉の餌)

kattʃun (勝つ)

hani (金, 鐘)

habbjun (被る)

toppjo: (南瓜)

pagama (釜)

kajo: san (痒い)

nati (から)

ʔamĩ ŋa fuɖun nati ʔikaran (雨が降るから, 行かない)

hajun (借る)

harijun (枯れる)

ha:rakjun (乾く)

ha:rakasun (乾かす)

kannë:jui (考える)	kjo:gui (人糞, 肥)
gandzu: (丈夫) tassa ともいう。	gusu (来世, 後生)
gwantfo: (元日)	guri: (敬礼, 頭をさげること)
rubattʃu (頑固者)	gu: (碁)
jaŋgo: (龜) 古い言い方。現在では ta- maja を用いる。	dī: (さあ)
kʔi:jun (消える)	dī: ʔiko: (さあ行こう)
jukujui (休息する)	ʃuku (酒杯)
jaragisa (きたない)	ʔippunu: (魚を取る鰯)
giri (義理)	saru: (猿)
ssarijun (腐る)	sa:ra (鱈)
kʔumjun (汲む)	ʔuʃi:ti (強いて)
kʔura (倉)	ʔuʃi:ti kakasun (強いて書かす)
takagura (高倉)	funto:ni (実に)
tīda jasumo: (日が暮れる)	funto:ni jutasata (実によかった)
jugure (夕暮れ)	gittʃi: (しゃっくり)
kʔudʒumjun (撥る)	sanʃin (三味線)
guki (茎)	dʒu:baku (重箱)
paku (筈)	panaguri: (冗談)
kʔijasun (消す)	ʃindʒijui (信じる)
çijun (蹴る)	ko:de: (自慢)
ʃikkwijun (喧嘩する)	pë:i (酔)
gwitta:ru: (片足跳)	sugu (直ぐ)
ʃiðko: (香)	sugu ʃu:i (直ぐ来る)
sukkwe: (後悔する)	sudasai (涼しい)
dʒu:mundʒi (交叉路)	sudamjui (涼む)
ho:dʒi (麴)	panne:jui (捨てる)
haŋijun (鳥などが交尾する)	sujui (磨る)
tsʔukijun (豚・馬・山羊などが交尾する)	ʃiwa (心配)
kʔwe:jun (肥える)	sudatijui (育てる)
kugatana (小刀)	sumijui (染める)
sujui (こする)	de:ka (代金) 「代価」という表現。
koto (琴)	te:ge: (大概)
munugutu (事, 物事)	daidʒi (大事)
jumita (言葉)	të:në: (大切)
	Fuwai (田芋の葉柄) 沖縄では mudʒi とい

う。

gaba (たくさん)

gaba ʔai (たくさんある)

takē (丈)

səŋgiʃi (竹馬)

taʃikani (確かに)

taʃikani ʔata ja: (確かにあった)

tasukijui (助ける)

damakatʃi (騙す)

taru (樽)

ʔamma:sa (だるい)

tʃo:du (丁度)

tʃo:du jitto: (丁度よい)

kʔamjui (掴む)

mitʃa (土)

kʔurumitʃa: (黒土)

ʔa:mitʃa: (赤土)

ʔiʃudʒi: (やせた土地, 灰色の土)

tsʔudzukjui (続く)

tsʔutsumi (鼓)

tsʔunnjama: (釣瓶)

tʃa:ʃi (どう)

tʃa:ʃi sui (どうする)

ʔatammai (当然だ)

dʒa: (どこ)

dʒa: kai ʔikjui (どこへ行くか)

tudukjui (届く)

dumui: (どもり)

ne: (無い)

nu: mu ne: (何もない)

no:sun (直す)

ma:ri sui (なくなる。目上の人が死ぬ)

ʔuttakujui (殴る)

nadijui (撫でる)

najui (鳴る)

na:ijui (慣れる)

niajui (似合う)

ninnjui (握る)

çinnijui (逃げる)

juŋŋijui (濁る)

no:ŋjui (拭う) no:ŋjun (拭う)

no:ŋjui (縫う)

nurijui (濡れる)

po:jui (這う)

mē:jui (生える)

paddʒasui (吐き出す)

paŋijui (禿げる)

tīmutu (箸)

çija: (囃)

parijui (晴れる)

pukkiujui (脹れる)

ban (番)

bafa (馬車)

mai: (少女)

kjora mai: (美しい少女)

maŋgē:jui (ひっくり返る)

çippajui (引張る)

çima (暇)

miwa:sai (病弱である) 「身弱さ」か。

nibu: (ひょうたん)

nibu (杓子)

pi: (干る)

su: pi: (潮が干る)

pī: (放る)

pī: pī: (屁を放る)

hamatta: (三枚鍋の蓋)

Furu (豚小屋) 昔は用いたが、現在では用いない。便所のことは kandʒu または jani-sso: でありフルとは言わない。

kʔuntsubuʃi (踏みつぶす)

furusai (古い)	nja: (もう)
furumun (古い物)	nja: ʔikan (もう行かない)
furu: (風呂)	jatafiriba (もしか)
mibun (身分)	jatafiriba kjukkamu firiran (もし か来るかも知れない)
tʃʔikara bufi (力武士)	mumu (桃)
pirumato: (平坦)	murajun (貰う)
ʔutʃibira: sui (ぺしゃんこにする)	dʒo: (門)
Fu:mu (埃)	ʔuwanai (やきもち)
fudukjui (ほどく)	je:jui (やせる)
bura (ほら貝)	jassai (やさしい)
Fujui (堀る)	jari (檣)
makkwa (枕)	japarasai (柔らかい)
makijui (負ける)	ju:ri: (幽霊)
magijui (曲げる)	jurusun (許す)
maddijui (混ぜる)	ju:jui (酔う)
mattʃui (待つ)	ju:ja: (酔っぱらい)
mattuba (真直ぐ)	jufijui (寄せる)
tʃi:muka:i (ままごと)	jurukubjui (喜ぶ)
manna: (真中)	jumjui (読む。数える)
nai: (実)	daku (楽)
mi: (魚の身)	daku ni najui (楽になる)
mʃka:jui (見える)	rifi (利子)
misaki (岬) tumaiともいう。	riʔki (恪気)
tsʔukuiwakʃ (小作)「作り分け」という表現。	su:kʃ (料理。ごちそう)
mikkijui (見つける)	ʔuttʃu (老人)
mi:mi: (新芽)	wakjui (湧く)
ʃinnja (皆)	wʃ:jui (分ける)
mukusan (婿)	wafʃijui (忘れる)
guʃi: (鞭)	ʃimaja: (毘) 「ねずみ」を取る道具。
munʃ (棟)	warajui (笑う)
miʔʔjui (めぐる)	